

かいほう

No.
40

平成6年新年号

特集 創立20周年記念式典・祝賀会
座談会・建設機械器具レンタル業、今後の展望
建設機械等レンタル(賃貸借)基本契約書の推進



社団法人 全国建設機械器具リース業協会

CONTENTS

年頭に
あたって

決意を新たに建設業の良きパートナーに!!

社団法人全国建設機械器具リース業協会会長 小俣 實

2

新春を迎えて

建設省建設経済局建設機械課課長 今岡亮司

3

年頭所感

建設省建設経済局建設振興課課長 折笠竹千代

4

特集・創立二十周年

写真でみる二十周年記念式典

6

二十周年記念式典 大臣・局長・永年勤続表彰

— 受賞の喜びを語る —

18

創立二十周年を機会として厚生年金基金にぜひご加入を

25

予算

平成六年度建設省関係予算概算要求の基本的考え方

26

推進専門部会

ユーザー仕様建設機械の普及促進

29

建設機械等レンタル基本契約書の推進

32

座談会

建設機材器具レンタル業今後の展望

33

NEWS

平成五年度建設機械器具賃貸業管理技士試験合格者&リスト
平成五年度可搬形発電機整備技術者試験合格者

47

支部だより

秋田支部『秋田の竿燈まつり』

52

福島支部 福島空港開業・盤越自動車道の工事進む

53

知識メモ

現代パソコン事情 マルチメディアパソコンの姿

55

協会より

協会支部名簿

57



●表紙
朝日に映える横浜ランドマークタワー

年頭にあたって



決意を新たに建設業の 良きパートナーに!!

会長 小俣 實

社団法人全国建設機械器具リース業協会

平成六年の新春をむかえ、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平成五年十月十八日、かねてより協会あげて準備を進めてまいりました創立二十周年記念式典並びに祝賀会を滞りなく終了させていただきました。これも偏に建設省を始め関係諸官庁の方々、当協会の顧問をお願いしている国会議員の諸先生、又各支部の賛助会員として御支援いただいている建設機械メーカー、商社等の方々、更には会員各位の御理解と御協力の賜物と深く感謝申し上げます。

当日はまた、役員の皆様方には式典・祝賀会において、大変御苦労をおかけ致しました。御好評をいただいたのも、これ偏に役員の皆様の一致協力によればこそと、あらためて厚く御礼申し上げます。

お陰げをもちまして二十年の節目を越えさせていただいた訳であります。式典を通じて感じましたことは、建設機械器具賃貸業が建設産業の一員として又、建設業の施工現場の機械化を担う業種として、立派に成長していかねばならぬ重要な使命と責任を負ってきていることを深く感じ、なお

一層努力いたさねばならないと決意を新たにしたいところであります。そのためには、業界の近代化、合理化、技術・技能の向上に努め、個々の会員が信頼される企業に成長するとともに、建設業者と機械化施工に取り組んでいくことが必要であります。

今後は、良きパートナーとなつて、今までに培われた賃貸メリットの更なる増大に務め、皆様の御要望にお応えすることが我々の務めであると考えます。

しかしながら日本経済は、公定歩合の引き下げや、公共事業の上積みによつても効果なく、逆に景気の底入れ宣言を白紙に戻すという、予想以上の低迷を続けておりますが、平成六年は当協会が成人して始めての年となる訳でありますので、この苦況を乗り越え「活力と魅力に溢れた業界」を目指し、前進してまいりたいと考えております。皆様の御協力をお願い致します。

年頭にあたって



新春を迎えて

建設省建設経済局建設機械課長

今岡 亮 司

新春を迎え、社団法人全国建設機械器具リース業協会の会員各位に謹んでお慶びを申し上げます。

全国建設機械器具リース業協会並びに会員の皆様には平素より建設行政につきましては、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

我が国社会は二十一世紀に向けて高齢化、都市化、国際化、高度情報化等急激な潮流の変化に直面しております。これらの変化に弾力的に対応できる経済社会の基盤づくりのためには、欧米社会に比べて立ち遅れた我が国の住宅・社会資本整備を着実かつ計画的に整備してゆくことが何よりも大切です。

ご承知のとおり、建設産業は住宅・社会資本整備等を通じて、国土の均衡ある発展を促進し、活力ある経済社会と安全で快適な国民生活を実現し、公共の福祉の向上に寄与する役割を担っており、豊かさを実感できる国づくり及び経済対策における公共事業を直接担う産業として、ますますその重要性は高くなってきております。

しかしながら、建設産業においては雇用労働条件や生産性

の面で立ち遅れが見られるなど解決すべき多くの問題を抱えており、これらの対応においても全国機械器具リース業協会の果すべき役割は極めて大きなものがあります。

建設省といたしましても、建設機械器具リース業の健全な発展を図るため、積極的に振興策を推進し、技術と経営に優れた業界として発展しようという今後とも一層の努力をいたしてまいり所存でありますので、貴協会皆様方におかれましては、従来にも増して技術の向上、組織力の強化等に積極的に取り組まれ、真に国民のニーズに應える住宅・社会資本の整備に努められますことを希望するものであります。

会員各位の本年の御健勝、御発展を祈念いたしまして年頭のあいさついたします。

創立20周年記念

日時 平成5年10月18日 (15時30分)

場所 虎ノ門パストラル

式典次第

(十五時三十分～十六時三十分)

桔梗五階

●開会のことば

協会副会長 玉井 武治

●式 辞

協会会長 小俣 實

●記念表彰

建設大臣感謝状
建設経済局長感謝状

受彰者謝辞 水野 健治
協会会長 永年勤続職員表彰

●来賓祝辞

建設大臣 五十嵐広三殿

●閉会のことば

協会副会長 多田 利夫

記念祝賀会

(十七時～十八時三十分)

鳳凰の間 一階

開会のことば

協会副会長 片桐 理

会長挨拶

協会会長 小俣 實

来賓祝辞

建設大臣 五十嵐広三殿
参議院議員 井上 章平殿

鏡開き

副会長 石井 毅
相談役 山内 鹿蔵、野口 誠輔
副会長 近藤 昌三
相談役 坂井 照、阿部 喜平
中村 憲

乾杯

社団法人 日本建設機械化協会
会長 長尾 満殿

祝宴

津軽三味線「風」

祝電披露

万歳三唱 デンヨー株式会社

代表取締役社長 船越 大資殿

閉会のことば

協会副会長 中野 勇

年頭にあたって



年頭所感

建設省建設経済局建設振興課長

折笠 竹千代

平成六年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、社団法人全国建設機械器具リース業協会並びに会員の皆様には、建設産業行政に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年の我が国経済は、消費の落ち込み、設備投資の鈍化等依然として景気低迷が続く一年となりました。建設産業界におきましても、住宅着工は比較的堅調に推移したものの、民間需要の低迷等総じて依然厳しい状況であったと申せましょう。

政府といたしましては、昨年四月には公共事業の施行促進及びその追加、社会資本整備の新たな展開を図るための新総合経済対策を実施し、さらに、九月には内需刺激の即効性の期待できる財政措置も盛り込まれた緊急経済対策を決定し、景気浮揚に努めているところであります。

さて、建設産業は、年間八〇兆円を超える建設投資を担う我が国の基幹産業であり、二十一世紀に向け、生活大国の実現が内政上の最重要課題とされている今日、ますますその重要性を増してきております。

その中で、建設機械器具賃貸業は、建設業者のニーズに応じ多様な建設機械器具の提供を担っており、建設機械の賃貸が主流になりつつある建設業界において、ますますの発展と活躍が期待されております。

とりわけ貴協会は、平成三年に「建設機械器具賃貸業の経営戦略化ビジョン」を策定され、それに基づいた第二次の構造改善に現在積極的に取り組まれており、活力と魅力にあふれた業界の実現が期待されるところであります。

一方、建設産業は、経営基盤の脆弱性、若年労働者の確保難、生産性の向上の必要性、建設市場の国際化等、産業構造や企業経営の面で解決すべき諸問題が山積しております。

このため、建設省といたしましては、これら諸問題の解決に向け「第二次構造改善推進プログラム」に基づき、各種事業を展開中でありまして、また、中央建設審議会から頂いた答申を踏まえ、建設産業行政の的確な推進に努めているところであります。

本年も、建設産業の健全な発展のため、諸問題の解決と建設産業界のさらなる飛躍の年となるよう取り組んでいく所存でありますので、引き続き建設産業行政へのご理解とご協力をお願いする次第であります。

貴協会におかれましては、現在実施中の構造改善を着実に実施し、今後とも建設産業を取り巻く環境の変化等に的確に対応し、建設機械器具賃貸業界の健全な発展を遂げるよう一層のご活躍を期待しております。

最後になりましたが、貴協会並びに会員各位のますますのご発展、ご健勝を祈念いたしまして年頭のあいさついたします。



開会のことば
式典実行委員長(副会長) 玉井武治

本日、大変お忙しいところを建設省より今岡亮司様又参議院議員井上章平先生を始め多数の御来賓の方々の御臨席を賜り、又全国各地の会員の皆様には遠路の所を御出席いただき、社団法人全国建設機械器具リース業協会創立二十周年記念式典を開催することが出来た事を心より厚く感謝申し上げます。

当協会は、昭和四十五年四月十六日に、三支部、約二〇〇社にて全国建設機械リース業連合会として発足し、昭和四十九年十月十八日建設大臣より、同連合会が社団法人の認可をいただきました。

当時は、総需要抑制策のなかで、公共工事が繰延べを受け、物価高騰と資源の枯渇という大変厳しい情勢でありましたが、法人化の実現は業界の健全な発展と、社会的、経済的地位の向上を目指して積極的に事業活動を展開した努力が認められたことにより輝かしい出発となりました。

お蔭様で、現在では、二十七支部で会員数も、一、三三七社を数えるまで成長いたしました。これも偏に、建設省を始め関係方面の方々の御指導御支援と会員の皆様方の御理解、御協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

又、賛助会員の皆様には、全国各地の営業所を含めて六九五件にのぼる御支援をいただいておりますが、大変に有難いことと心からお礼を申し上げます。

今日、建設機械器具賃貸業は、建設業に於ける経営の合理化や共同企業体による工事施工方式の採用に依り、建設業の発展に果たす役割が、年々増加を示しており、建設業推進の不可欠の業種として高い評価をいただける様に成りました。

しかしながら業歴が浅く、中小企業が多いなどから経営基盤の強化を計り適切な賃貸用機械の管理体制を向上させるためには近代的な形態に改善する必要があることを痛感し、この実現に向けて業界ぐるみで取り組んで参りました。

そして、業界あげての盛り上がりにより、建設機械器具賃貸業が昭和五十六年十月九日、中



式典次第
司会者 藤原由江さん

式辞

小企業近代化促進法に基づく指定業種の指定を受け、翌年の昭和五十七年十月二十九日には、同法に基づく特定業種に指定されました。

その結果、全国建設機械リース業連合会が近代化計画を作成する主体団体となり、構造改善五ヶ年計画の策定作業に着手いたしました。事業の対象が会員企業であるために従来の連合会組織を変更する必要が生じました。

それゆえ協会は、昭和五十八年八月六日定款の改正を行い、会員資格者を賃貸を営む企業に改め、団体名も現在の社団法人全国建設機械器具リース業協会と改称いたしました。

その後、昭和五十九年四月一日には、中小企業近代化促進法に基づく建設機械器具賃貸業の構造改善計画が、建設大臣より承認をいただき、平成三年三月三十一日までの五年間第一次構造改善事業を推進して参りました。

この間、昭和六十年四月十七日には通産省資源エネルギー庁通達による「可搬形発電機整備技術者」の認定講習が実施されましたが、資格者の認定人員数も現在までに四、四七一名に達し、全国各地で可搬形発電設備の維持管理に携



式辞を述べる
会長 小俣 実

つております。

又、昭和六十二年四月一日には、高齢化社会を迎えて、公的年金を補完するものとして厚生大臣の認可をいただいて設立された全国建設機械器具リース業厚生年金基金は現在、事業所数四〇五件、加入員数一三、一五八名、年金積立資産八六億四円を保有するに至り円滑に運営出来る規模となりました。

更に、人材養成事業として昭和六十二年五月一日、「建設機械器具賃貸業管理技術者」の講習会と試験制度が発足いたしました。平成二年十月十二日、この試験制度が「建設機械器具賃貸に関する知識及び技術の向上を図る上で奨励すべきものである」として、称号も「建設機械器具賃貸管理技術士」と改め、建設大臣の認定をいただきました。

現在までに、三、六一八名の有資格者を誕生させておりますが、可搬形発電機整備技術者の認定事業と共に協会が行う重要事業と成りました。

この他、ハード・ソフト両面に互に諸事業を実施した結果可成の成果で第一次の事業を終了いたしました。依然として脆弱な経営基盤労働力不足高齢化等の問題を抱えていることが判明いたしました。

そこで協会では、業界の目指すべき方向とあるべき姿についての指針づくりに着手して平成三年三月「建設機械器具賃貸業の経営戦略ビジョン」を発表して、これに基づいて第二次構造改善計画が策定されました。そして建設大臣の御承認をいただき平成三十年十月一日より第二次構造改善事業を実施して、現在三年目の事業を進めているところでございます。

二十一世紀を間近に控えて、今、次々と大きな変化が続いております。建設業においても、効率的、合理的な機械化施工が求められており、我々といしましては、今までに培われた賃貸メリットの更なる増大に務め、建設業者の要望にお応えすることが肝要であると考えます。

これから我々は、建設関連業としての重責を果しつつ「活力と魅力に溢れた業界」を目指して各種事業を積極的に推進してまいらる所存でございます。

今後とも皆様の一層の御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

写真で見る (社)全国建設機械器具リース業協会 20周年記念式典・祝賀会

平成5年10月18日



会場入口(虎ノ門パストラル新館)

平成五年十月十八日、当協会の創立二十周年記念式典・祝賀会に、建設省から今岡亮司氏、参議院議員井上章平先生を始め、多数の御来賓のご出席を賜り、盛大かつ賑やかに挙行され記念表彰では、大臣・局長・永年勤続表彰の映えある受賞に、会場から盛んな拍手が送られました。

協会は、建設関連業としての重責を果しつつ「活力と魅力に溢れた業界をこのテーマを目指して、各種事業を積極的に推進すべく決意を新たに」と、表明されました。

式典会場



開会に先立ち、当協会の発展に御尽力いただいた物故者の方々の御冥福を祈り、出席者全員1分間の黙禱

受彰者代表授受



会長表彰

建設経済局長表彰

建設大臣表彰



受彰者謝辞
水野健治氏

謝辞
受彰者を代表いたしました一言御礼を申し上げます。本日は栄えある二〇周年記念式典において、建設大臣より感謝状を頂戴いたし、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。次第であります。

う、建設機械器具賃貸業の発展に微力ながら努めてまいり所存でございますので、今後とも御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。はなはだ簡単でございますが、謝辞とさせていただきます。ありがとうございます。平成五年十月十八日 受彰者代表 水野健治



来賓



役員

建設大臣表彰

志茂 法人氏
吉川 義孝氏
永田 仁作氏
水野 健治氏



記念表彰



建設経済局長表彰

大高 至氏
原 幸男氏
大畠 公夫氏
佐藤 政雄氏
伊藤 武史氏
高屋 浩志氏

永年勤続職員会長表彰

野崎 雅子氏
鈴木 英子氏
小倉 秀信氏
安達美代治氏
後本 暁男氏
関口正一郎氏
大川 喜子氏
松川 秀治氏
明石 俊幸氏
大内 英昭氏
淵脇美絵子氏
槻木沢四郎氏
吉田 準一氏
伊藤 壽朗氏
阿部 智光氏
的場 譲氏
小野 恒雄氏
清水 五月氏
北野 富也氏





建設大臣祝辞
五十嵐広三



出席いただいた相談役の方々



閉会のことば 副会長 多田利夫

祝 辞

本日、社団法人全国建設機械器具リース業協会の創立二十周年記念式典が開催されるに当たり、心からお祝いを申し上げます。

貴協会は、昭和四十五年四月に任意団体全国建設機械リース業連合会として設立され、その後、昭和四十九年十月には、社団法人として建設大臣の設立許可を受けられ、さらに昭和五十八年八月には社団法人全国建設機械器具リース業協会に名称を変更され、この度、設立二十周年を迎えられるに至っております。

この間、激動する経済社会の中で建設機械器具賃貸業界の組織化に多大な努力を払われるとともに、企業経営に関する適正な指導や建設機械器具賃貸業管理技術試験を実施されるなど業界の発展と社会的地位の向上のため御尽力され、建設機械器具賃貸業界が今日の隆盛を見ましたことは、歴代会長を始め役員並びに会員の皆様の熱意のたまものであり、その御努力に対しまして、心から敬意を表する次第であります。御承知のとおり、建設産業は国民生活と産業活動の基盤整備を担う基幹産業として、国民生活の向上や経済社会の発展に多大な貢献をしておりますが、今後更に発展していくためには、雇用労働条件の改善や生産性の向上など解決すべき課題を抱えております。

建設機械器具賃貸業はこれら課題の抜本的解決に極めて重要な施工現場の機械化を支えるという役割を果たしており、近年、建設技術の高度化とあいまって建設機械のリース・レンタルへの依存も高まっており、その重要性を一層増しております。

建設省といたしましては、今後とも中小企業近代化促進法に基づく構造改善事業の推進や優遇税制による設備投資の促進などの支援を積極的に行っていく所存でありますので、貴協会におかれましても、業界の近代化、合理化、技術技能の向上にますますに貢献され、この栄えある二十年の歴史に、新たなページを加えられることを大いに期待するものであります。

最後に、貴協会並びに会員各位の一層の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成五年十月十八日

建設大臣 五十嵐 広三



会長あいさつ
小俣 實



祝賀会の開会をつける
司会者 藤原由江さん



開会のことば
副会長 片桐 理



会長あいさつを聞く招待者

記念祝賀会



御出迎えの役員



入 場 風 景





鏡 開 き
近藤副会長のかけ声とともに



乾 杯
(株)日本建設機械化協会 長尾会長

来 賓 祝 辞



建設経済局長 小野邦久氏



参議院議員 井上章平氏





力強く津軽三味線演奏



声高らかに唱和／



退場風景



万歳三唱
デンヨー株式会社 船越社長



閉会のあいさつ
副会長 中野 勇



一同乾杯



懇談風景

大臣表彰 二十周年に想うこと

(株)武生リース 代表取締役
水野健治

先達が新しく業界をまとめ振興、改革を重ね、ここに設立二十周年の記念式典を盛大に挙行されました。(株)全国建設機械器具リース協会の一員として、誠に御目出度く、又、誇りにも思っております。

稀な機会ですから、思い出す儘自由な形式で少し書いて見ます。生家は機械屋で、販売の傍ら発動機とポンプを貸しておりました。建設機械のリースを始めたのは昭和三十九年(株)水野商會に、リース部を設けた時からであります。その後、昭和四十九年に(株)武生リースを設立し本格的に建設機械リース業を営んでまいりました。昭和五十一年には福井県にリース協会が出来、全建に加盟し、全建の第十回理事会は、石川県と協賛し福井も全会員が参加し、片山津へお迎えしましたことも思い出

出の一つであります。又、福井県にも協同組合をと中央会に相談している頃、全建の山内会長より石油備蓄基地の件で電話を頂き、大変悩んだ末、兎も角お引受けし、早速、県関係、基地事務所関係、関連業者と組合設立の折衝を行い、一方県リース協会において、福井県建設機械リース業協同組合設立の件と、福井石油備蓄基地受注の件(建機から事務用品迄総まとめ引受)の二件について臨時総会を開き、専ら説得に努め、夕方、全員一致で賛成となり、同日、組合設立委員と備蓄基地委員を決定し、まった無しの出発進行と成ったことでありました。御陰で福井県建設機械リース業協同組合も設立され、披露式典には坂井会長も出席頂きました。備蓄基地の方も通産、建設、共同企業体、備蓄関係、組合員の皆様の献身的な御協

力により、苦難にも耐え五年に渉る共同作業も無事終わりました。この貴重な経験から「メリットは我々が築くものだ」と学びました。これを後日、全建の組合、集約、指導研修会では是非発表するように

近代化への歴史

松栄重機(株) 代表取締役
志茂法人

創立二十年を迎えましたことを心からお祝い申し上げます。

当時をかえりみますと、この二十年と云う歳月は、日本経済の成長と共に、リース・レンタル業が新しい事業として発展していった近代化への歴史でもあったと思います。

更にその間に、建設事業の機械化された工法といい、施工技術の高度化といい、工期の短縮・コストダウン等を図るために建設機械の導入を積極的に進められてきたことが、われわれリース・レンタル業のこんにちの隆盛の原動力となつていました。

このような成長を支え、推進してまいりました陰には、これらすべてご援助を賜りました関係官庁・建設業界・諸先輩の方々及び、正・賛助会員としてご協力を頂きました皆様のお陰によるものと感謝を申し上げます。

業界の益々のご繁栄を祈ります。

また本日の記念日には、大臣表彰を有難くお受けしました。この栄誉は皆々様の温かいご声援の賜物でした。有難うご座居ました。誌上をかりてお礼申し上げます。

局長表彰 流通正常化を願う

(株)丸大工機商会 代表取締役
大高 至

激動期を乗り越え、創立二十周年を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

先般この目出度い式典に於いて、私ごとき者が建設省建設経済局長様より感謝状を授与され、深く感激しているところであります。

これも偏に全国建設機械器具リース業協会の会長様はじめ幹部の方々の指導と支部会員各位の事業運営に対するご理解とご協力の賜ものと存じあらためて心からお礼申し上げます。

当支部は昭和六一年四月一日、任意団体として発足し、翌昭和六二年四月一日より「社団法人 全国建設機械器具リース業協会」に正式加入を認められ、小規模な組織ながら会員の結束、組織の整備、事業活動の活性化に会員一丸となり努力しているところであります。

特に人材養成事業に力を入れ、第一回管理技士試験に際しては、後発の支部ながら全員合格を目指し、自主的に秋田市まで本部事務局職員の派遣を煩わし講習会を開催、猛勉強を重ね挑戦した結果、合格者四六名、合格率九二%(全国平均七五・六%)と全国一の成績を収めた快挙は今なお記憶に新しい思い出の一つであります。

創立二十周年を機に、変り行く市場環境を的確に把握しながら創立期の感動を呼び戻し、新しい感動の経営を思考し、流通正常化に会員一体となって取組み、協会の基盤形成をしたいものと念じて居ります。

「個性ある企業、価値ある経営」に徹し、量の拡大よりも、市場は小さくとも、利用者に信頼される企業として、二一世紀に向けて生き続けたいと思つて居ります。

第二次構造改善計画事業の促進を

(株)旭建機 代表取締役
佐藤政雄

社団法人全国建設機械器具リース業協会が、創立二十周年を迎える事が出来ますのも、偏に、歴代会長をはじめ多くの諸先輩方のご尽力の賜物と感謝致しております。

私もはその固い基盤の上に立ち、今後二十一世紀に向けて、新しいリース業のあり方を目指さなくてはなりません。

昨年は、日本経済の驚異的な成長に伴い、リース業界も大きく飛躍して参りましたが、その後のバブル崩壊の痛手は大きく、なかなか先の見えない情勢です。そう言う中では建設業界もひとときわ厳しく、受注工事の激減、労働者不足、時短等は、規模の大小を問わず、大きな問題となっております。山積するこれらの重要課題を打開していくには、我々リース業界も大きな役割を課せられて

おります。その為には、第二次構造改善事業の促進と、一層の経営基盤の確立を計り、能率的、かつ安全な機種選定により、建設業界の需要に応えなければならないと考えます。

理事在任中に、記念すべき二十周年を迎えて、心新たに残された任期を精一杯勤めさせて頂く所存でございます。今後共、皆様方の暖かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

局長表彰 受賞感想

コーエイ(株) 代表取締役

高屋浩志

創立二十周年を迎えられて、大変めでたく、ご同慶に堪えません。二十年といえば、ちょっと先の時代でいえば二昔、このスピードのある時代で表現すれば三昔、四昔、とも言えるのではなからうか。

その間、設立運営に携わった方々は、大変なご苦労の連続だったろうと思う。いまだ協会の存在価値を問う意見もあるが、確かに個々の企業にとって、即その業績に貢献するものは少ない。然し我々業界にとって何よりも重要な事は、建機レンタル業が一産業として基礎をなした、社会に認知されたという事ではないかと思う。

時代のニーズに沿って、個々のレンタル業が産声をあげ、草創期を經過しバブルに支えられて、飛躍的に発展し、協会の事業もそれに符号する様に「特定業種の指定」「第一次構造改善事業」「第二次構

造改善事業」「可発整備技術者制度」「管理技士制度」「厚生年金基金制度」「割増償却制度」等々、積極的に推進してきた事には、かなり高い評価をする事が出来る。一九九〇年二月二十一日、株価の大暴落がはじまり、四月六日まで下げに下げてバブルが弾けた。円高ドル安、株価の上昇、地価の高騰、公定歩合の超低金利等によりつくられていったバブルではあったが――。

この崩壊をきっかけに未曾有の不況に突入した現在、各企業の経営手腕が真に問われようとしている。我々の協会を大事に、そしてフェアな競争の為に、業界の土俵作りに今後共努力し、社会に貢献できる産業へと益々成長していかなければならないと思う。

此度の受賞を契機に、その感を強くするところであります。

数えきれない思い出

(株)原鉄 代表取締役

原 幸男

社団法人全国建設機械器具リース業協会創立二十周年記念式典が盛大に挙行されましたことを心からお祝い申し上げますとともに、小俣会長はじめ、実行委員の皆様方に深く敬意を申し上げます。

此のたびは創立二十周年記念表彰に思いもかけない表彰をいただき身にあまる光栄と感謝申し上げます。恐縮しているところであります。思い起こしますと、長野県支部が全国組織に加入し、間もなく第一次構造改善で業界の近代化事業が開始となりました。協同組合の事務提携、建設機械器具賃貸業管理技士試験制度、可搬形発電機整備技術者資格等、合理化、技術の向上に只々夢中で携わったことが昨日の出来ごとのように思います。

特に早稲田大学理工学部で、建設省係官と立ち合いの試験会場の思い出、池の端文化センターで全国

より事務局の参集をいただき、国税局係官からの消費税の講習会、厚生年金基金制度設立で明治生命丸の内本社での会議等々数えきれない思い出が走馬灯のように浮かび、しみじみとなつかしさを感じています。これも在任中関係各位のあたたかなご厚情とあらためて深く感謝いたしております。

今回の表彰を機会に微力ではありますが、今後も協会発展に努力することをお誓い申し上げます。最後になりましたが、二十周年を期に、さらなる飛躍と発展をご祈念申し上げます。受賞の挨拶とさせていただきます。

永年勤続表彰

創立二十周年記念

永年勤続表彰に思う

大阪支部

野崎雅子

先般、(財)全国建設機械器具リース業協会、創立二十周年記念式典ならびに祝賀会が盛大に開かれましたこと、心よりお慶び申し上げます。

また、当日は、永年勤続の表彰をいただき厚くお礼申し上げます。顧みますと、私が大阪建設機械リース協同組合にお世話になって以来、早や十六年がたちました。この間、無我夢中で事務局の仕事

を担当して参りましたが、いま思ひ起こしますと、様々な出来事が走馬灯のように駆けめぐった十六年であったように思われます。この先、何年、組合にお世話になるかは判りませんが景気低迷のこの難しい時代の中で、事務局として誠心誠意、的確な判断のもとに、精一杯努力して参りたいと考えております。

福島支部

鈴木英子

創立二十周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

このたびは、記念式典にお招きいただいた上、晴れがましい席で永年勤続の表彰の光栄に浴し、非常に感激致しております。

建設機械に関する事など全くわからぬ専業主婦の私が、ひよんな事からこの業界に入りましたので、戸惑いや、失敗など、いろいろな事がございましたが、今となりましては、どれも楽しい思い出です。私のような者が、何とか、ここ

までやってこられたのも、皆様のご支援があったからこそと存じます。

改めてお礼申し上げます。これからも、なお一層職務に邁

この度(財)全国建設機械器具リース業協会が創立二十周年を迎え記念式典を盛大に開催されましたこと誠にお目出度うございます。会長を始め各実行委員の方々のご努力に対し深甚なる敬意を表します。

又、永年勤続表彰にあずかり心より感謝申し上げます。

私も平成二年に行った北海道支部創立二十周年を思い出します。前日定山溪温泉で行われた第四十九回(財)全国建設機械器具リース業協会理事会に引き続き行われた記念式典、祝賀会、翌日の記念ゴルフ大会など입니다。

一連の準備に始まり各委員の方々は良くやっただと思います。私もただ成功することを念じ夢中だったのをおぼえています。

案内状も色分けし四通に及び、

進いたす所存です。

今後共ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。このたびは、誠にありがとうございました。

北海道支部

安達美代治

官公庁、諸団体には持参しご挨拶とお願いをして参りました。

準備とはこんな大変なものかと。式典に入ってからスミーズに進行し、いろいろのイベントが盛り上がる中祝賀会も無事終了し、ご臨席の方々の出口のところでお送りするときは一瞬安堵と同時に胸の熱くなるのを覚えていました。

その時立ち止まってどうもご苦労さんでしたと言われたとき涙が溢れ頭を上げることが出来ませんでした。

あとで実行委員やお手伝の方々の慰労会の席で会長から「今日は皆さんご苦労さん。」と言われた時、ただ涙がとめどなく鳴咽に変わっていました。今考えるとこの年をして恥ずかしく思います。

私は今も映画を見、テレビを見ながら涙を流すことがあります。家内は「また」と言って笑っていますがやはり同じに目に涙。今どきと思われるでしょうが昔気質と言いか一人位そういうのがいても良いのではないのでしょうか。この度の二十周年式典の終了時にもどれか一人位居そうな気がします。

北海道も今年は一月の釧路沖地震に始まり七月の北海道南西沖地震又冷害による農作物の凶作とダブルパンチで大変な年でありました。

これらの特需効果は一部であり

協会にお世話になってから十年余、光陰矢の如、この喩えの通り、過ぎてしまえばアットという間でした。

入った頃の新東京建機リース協（新東京）は流動資産の合計が一三六万円、甚だ心細い財務内容でした。

全建リース協も当時は旅費にもこと欠く状況でした。

ますが、これの反動も懸念されます。

先き行き不透明ではありますが暗雲が切れ陽のさす日もそう遠くないと我にといかける今日この頃です。

我々業界も一致団結、経営の意識改革と企業努力により、こ一番何としても頑張り生き抜くことこそ肝要かと存じます。

そして次の節目の記念式典を迎えるときは思い出して笑って懐かしく回顧することを望みます。

最後になりましたが会員皆様方の益々のご発展とご多幸を祈念いたします。

東京支部

関口正一郎

構造改善実施を期に全建リース協は会費の値上げをしました。

新東京は合同直後会費の値上げは難しいので、事務の簡素化と、経費の切詰めで対処しました。

当時は全建リース協の経理も兼務しておりましたので、新東京と同じ転記不要の併票会計に改めました。

何れも今日に至っております。

その頃のことを考えますと、今回の二十周年記念式典は夢のようなです。

人、物ともに拡充されました。

ご同慶に堪えません。

お陰で新東京も財務基盤は充実いたしました。

これ偏に会員、賛助会員のご協力と会員数が多いことによるもの

と思っております。

今回は図らずも、勤続永きにより皆さんの前で、表彰を受けました。

平素は協会運営の黒子、目立つ表舞台はまことにこそばゆいことでした。

何れにしてもご厚庇の賜です。感謝の外ありません。

青森支部

槻木沢四郎

事の内容を知っていますのでその点では助けて頂きました。

今年の二月で満六年が過ぎました。本部の二十周年祝賀会にお招きを頂き、有難うございました。

本部役職員の方々には受付から会場案内等日頃とは反対の役柄御苦労様でした。流石に各会社のトップでありました。完璧な行事運営に感服致すと共に何か日頃の各社の社員達に手本を見せている様にも感じられました。二十周年と云う佳き日に永年事務局長として表彰して頂き、この上ない幸せと思っております。

今後全建リース協の益々の御発展を祈念すると共に、青森県支部

の二十周年も盛大に出来ます様会員の加入促進、構造改善事業の推進に頑張りたいと思います。今後

共、全建・支部会員や皆様の御支援をお願い致します。

新潟支部

吉田準一

創立二十周年誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。さて新潟県建設機械器具リース業協会は創立以来六年、やっ

否めません。ただ徒らに歳月を重ねただけの六年間にも拘らず永年勤続という名誉ある表彰を受け恐縮至極に存じます。これを機に経営の近代化・企業体質の強化等協会の活性化に積極的に取り組み些かでも会員の皆さまのお役に立つよう努力し地域密着型産業としての協会の位置付けを明確にPRしてゆきたいと思ひます。本部並びに役員の皆さま方のご協力ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

中国支部

清水五月

去る十月十八日に全建リース協創立二十周年式典に招待され、ご

来賓多数出席の中、若輩の私までが会長表彰を頂き光榮至極に感ずる次第であります。

当日、朝出発に際しては自家用車による正面衝突と言う不遇に見舞われ通院の後上京、式典にはな

このたび、協会創立二十周年記念式典において、はからずも支部事務局長として永年勤続表彰の栄に浴しましたことは、誠に名誉なことと深く感激致しております。顧みますと、昭和六十三年五月、九州支部（九州建設機械器具リース業協会）に第二の勤務をさせて頂いてより早や五年有余が経過しました。県庁生活以外を知らない私にとりましては、初めて経験する民間の新職場は不安と驚きで一杯、正直に申して、勤め始めた当時はカルチャーショック連続の毎

の重要性は全国、いや世界に飛躍するまでに成りました。

更に近代化する二十一世紀に向かい微力ながらも地方会員の手となり足となって協会発展のために尽力致す所存であります。

小俣会長はじめ本部事務局及び役員方々のご指導ご鞭撻に對しお礼申し上げ受賞に際しての感想文とさせて頂きます。

どうもありがとうございました。

九州支部

北野富也

日でした。

昭和六十三年と言えは、第一次構造改善事業の真つ最中、前事務局長との事務引継ぎもそこそこの、今まで聞いたこともない建設機械の名称がずらりと記載された調査票の集計、電卓を叩いての馴れぬ計算、時には算盤まで使ったの悪戦苦闘、その暇をぬっての九州協会の事務処理等、公務員時代の公務員常識を覆す程の仕事のボリュームにもどうにか馴れて一年、その間、本部事務局の皆さんのご指導をお受けしながら何とか

無難に第一次を終えることができたことも、今では懐かしい思い出の一つであります。

正に「習うより馴れろ」の言葉通り、些か日々の仕事に落ち着きを取り戻しますと、本部事務局皆さんにも何かと注文をつける生意気さも同時に身に着けるようになりました私に、今回、全国十九支部事務局長の一人として受賞の末席を汚しましたことは望外の喜びと同時に面映ゆい気持ちでもありました。

当日、虎の門パストラルの会場において先輩事務局の方々と席を連ね式典を拝見した際、ふと「一

期一会の職場」と言う言葉が浮かびました。

これから何時まで九州支部事務局長としての重責をお任せ頂けるかわかりませんが、時の触れ合い、人の触れ合いを大事にする茶道の真髄である此の言葉を常に心の内に反芻し、今回の受賞を更なる励みのワンステップとして一層頑張

って参りたいと思います。
これからの協会が、建設関連産業の一翼を担う素晴らしい団体として、一層ご発展になりますことを切にお祈り申し上げますと共に本部支部皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

お詫び

当協会創立二十周年を記念して発行いたしました全建リース協二十周年誌に、校正ミスがありましたので、下記の通り訂正してお詫びいたします。

P 88 兵庫県建設機械リース業協同組合欄の六十一年に末田芳晴氏の名前が脱落

祝 創立20周年

(社)全国建設機械器具リース業協会 「創立20周年を機会として 厚生年金基金にぜひご加入を」

全国建設機械器具リース業厚生年金基金

当基金は国の厚生年金保険の一部を業界で自主運営することによって年金額や支給条件をよくしたり、業界の事情に合わせて、加入者や退職年金受給者のみなさまの福祉の向上を図るため、各種の福祉事業を行っております。

当基金は昭和62年4月1日に設立され、本年をもって7年目を迎えたところですが、平成5年8月末現在、加入事業所数404社、加入員数13,073名、年金の積立金は87億円に達しております。加入員数は設立当初の2倍、一企業当りの平均加入員数は当初の20名台から30名台に増加しております。このことはこの間の業界発展を物語るものといえます。

しかしながら、会員企業数に比較した場合未だ過半数のみなさまが未加入の状況にあります。昨今の経済情勢厳しい折から会員のみなさまには苦しい事業経営を強いられられることは存じますが、このようなときにこそ、人材を確保し、従業員の定着を促し、因って経営基盤の確立を図ることが必要とい

われております。その一助として是非とも基金にご加入いただきますよう、おすすめする次第でございます。

●基金事業のあらまし 1、給付のしくみ

当基金の給付は、国の老齢厚生年金にプラスアルファを上乗せして給付する「基本部分」(基本年金)と、当基金が独自に設計した「加算部分」(加算年金・一時金)の2本建てになっていきます。

2、基金から受けられる年金・一時金

(1) 第1種退職年金(基本年金+加算年金)
当基金に加入していた期間が10年以上あることが必要です。退職して加入員でなくなつた人は60歳から、60歳後に退職した人はそのときから受けられます。また、在職中の人(基金加入員)は、65歳になると加入員の資格を喪失しますので、65歳からとなります。

また加算年金は「選択一時金」として一時金で受け取ることもできます。

(2) 第2種退職年金(基本年金)

当基金に加入していた期間が1か月以上10

年未満の人が退職して60歳になったとき、または60歳以上で退職したとき受けられます。

(3) 脱退一時金(加算部分)

当基金に加入していた期間3年以上10年未満の人が、退職したとき受けられます。また62歳以後に加入した人は3年未満で退職しても受けられます。

加算部分の給付にはその他に遺族一時金があります。

3、費用の負担

基金加入後は、国には厚生年金の保険料、基金には掛金を払っていただくようになります。掛金は、基本部分の給付に当てる普通掛金、加算部分の給付に当てる加算掛金、基金の運営に当てる事務費掛金があります。

基金加入後に負担が増えるのは加算掛金と事務費掛金で、厚生年金保険の標準報酬月額にそれぞれ11/1000 3/1000を乗じた額になります。このふんは、全額事業主負担になります。

4、おもな福祉施設事業

結婚祝金、死亡弔慰金、就学祝金、長寿祝金を支給しています。契約保養施設の利用補助を行っています。

●基金についてのお問い合わせ・お申込み先

全国建設機械器具リース業厚生年金基金
〒102 東京都千代田区飯田橋2-7-5

明治生命飯田橋ビル5階

TEL 03-3230-3871

小俣会長 建設大臣表彰

本協会の小俣会長が、7月21日、第45回国土建設週間に当たり、多年建設事業の発展に貢献した功労者として建設大臣表彰を、建設機械関係受賞者を代表として受けられた。



事 項	事 業 費		国 費	対前年度倍率
		対前年度倍率		対前年度倍率
道 路 整 備	82,692	1.01	24,894	1.03
治 山 治 水	20,626	1.03	12,293	1.03
治 海 岸 地	19,132	1.03	11,491	1.03
急 傾 斜 地	630	1.02	368	1.03
都 市 計 画	864	1.03	434	1.03
公 園	27,952	1.04	12,096	1.04
下 水 道	3,505	1.05	1,458	1.05
市 街 地 再 開 発 等	18,948	1.04	10,167	1.04
住 宅 対 策	5,499	1.04	471	1.09
住 宅 供 給 等	104,640	1.06	10,196	1.03
住宅金融公庫融資	24,415	1.05	6,151	1.05
一 般 公 共 事 業 計	80,225	1.06	4,045	1.00
	235,910	1.04	59,479	1.03

(注) 投資的経費のシーリング1.05に対し、一般公共事業計の伸び率が1.03倍であるのは、NTT・B型事業(補助金型事業)6,898億円(前年度7,565億円、対前年度0.91倍)を含むことによる。

主 要 事 項	事 業 費		国 費	対前年度倍率
		対前年度倍率		対前年度倍率
(1) 生活者・消費者の日々のくらしを支える生活空間づくりの推進	35,605	1.07	16,229	1.07
(2) ゆとりある住まいづくりの推進	74,623	1.07	7,783	1.07
(3) 活力あるふるさとづくりの推進	81,492	1.06	10,123	1.11
(4) 高齢者・障害者にもやさしい福祉の生活空間づくりの推進	6,936	1.06	2,584	1.06
(5) 地球環境にもやさしい水と緑豊かな環境づくりの推進	26,083	1.06	13,913	1.06
(6) 家族が一緒に過ごせる余暇空間づくりの推進	4,467	1.10	2,341	1.11
(7) 高度情報化等の進展に対応した次世代生活空間づくりの推進	1,660	1.16	736	1.13
(8) 技術開発の推進	28	1.05	28	1.05

○主要事項別総括表

(単位：億円)

二、概算要求額

(単位：億円)

三、概算要求の主要事項

(単位：億円)

平成六年度建設省関係 予算概算要求の基本的考え方

建設省大臣官房会計課

一、概算要求の基本方針

(1) 質の高い住宅・社会資本の計画的整備に向けて、所要の公共事業関係費の確保を図る。

○ 公共投資基本計画の完全達成と所管五箇年計画の着実な推進を図るとともに、内需主導型の経済成長を図るため、所要の公共事業関係費の確保を図る。

(2) 生活者・消費者の視点に立つて、生活関連分野への重点配分を図る。

○ 本格的な高齢化社会の到来する21世紀を見据え、生活者・消費者の視点に立つて、美しい街並みの整備、水と緑の保全・創出、ゆとりのある住生活の実現や人にやさしいみちづくりの推進など真に国民生活の質の向上に資する生活関連分野への重点配分を図る。

○ この場合において、所管事業のそれぞれの分野においても生活者・消費者重視の施策分野への重点投資を図る。

(3) 所管事業全般にわたる環境との共生を図りつつ、豊かな環境創造の推進を図る。

○ 質の高い国民生活を支える基礎的条件を整備するため、多極分散型国土の形成と、安全な国土づくりの推進を図る、○ 所管施設の管理面においても、生活者・消費者重視の施策の推進を図る。

○ 質の高い環境を備えた国土を形成するとともに、地球環境問題の解決にも貢献する。

献しうる環境共生型の所管事業の展開を図る。

- (4) 所管事業の総合的・一体的推進を図り、当面する政策課題に的確に対応する。

○ 欧米諸国と比べても見劣りしない真に豊かな「生活空間先進国」づくりを推進していくためには、個々の施設の量的充足のみならず、よりトータルな対応が求められており、このため、より一層の所管事業の総合的・一体的推進を図る。

○ 生活・交流の実態に即した圏域単位の視点に立って、所管事業の総合的推進を図る。

- (5) 補助金等の簡素合理化を推進する等、地域の主体性・自主性を最大限尊重する。

○ 補助金等の簡素合理化を引き続き推進するとともに、所管事業の実施に関し、特に市町村の果たす役割を重視する等、地域の主体性・自主性を最大限尊重する。

- (6) 所管事業の推進に当たって、より一層の予算配分の重点化・効率化を図る。

○ 予算の具体の配分に当たっては、各地域における自然的・社会的条件やそれぞれの公共施設の整備水準、その時々

社会経済情勢、地域住民のニーズ等を勘案し、生活関連分野及び国民ニーズの多様化・高度化に対応した事業への重点化・効率化を図る。

○ 局所的、省率的な事業調整を密にし、効率的な事業執行を図る。



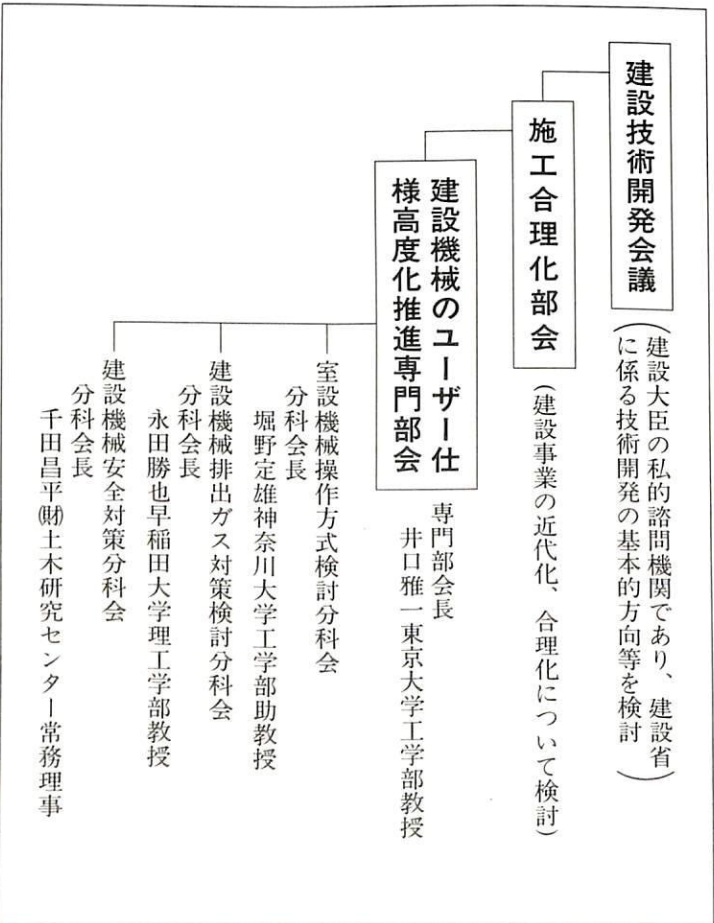
ユーザ仕様建設機械の普及促進

1、目的

今日の建設作業において重要な役割を担っている建設機械に着目し、建設工事の効率化、省力化、安全性の向上及び作業環境の改善の促進等資する建設機械のありかたについて検討を行い、使いやすく、安全で快適な建設機械を普及させていくことを目的としている。

2、検討体制

平成2年度から建設大臣の私的諮問機関である『建設技術開発会議』の施工合理化部会に「建設機械のユーザ仕様高



度化推進専門部会」を設け、検討を行っている。専門部会では、検討課題ごとに左図の様な三つの分科会を設置し、緊急性の高い課題から順次検討を進めている。

3、『建設機械に関する技術指針』の策定

(平成三年十月八日大臣官房技術審議官通知)

(2)の体制により検討された基準を満足する建設機械の開発促進、普及促進を図るため、平成三年十月八日『建設機械に関する技術指針』を策定し、その中で『建設省直轄工事の施工にあたっては基準を満足する建設機械の使用に努める』こととしている。

4、具体的な取組みの状況

(1) 標準操作方式建設機械の普及促進

- ① 平成四年度までの取組み状況
- 平成四年一月一日「標準操作方式建設機械指定要領」を施行
 - 対象機種…バックホウ
- (併せて、建設機械課長通達により、バックホウについて、直轄工事において、平成五年度からの使用を義務付け。)

・平成五年一月一日より「標準操作方式建設機械指定要領」を改正施行

対象機種の追加…移動式クレーン

(併せて、建設機械課長通達に

別表1 標準操作方式建設機械

機 種	備 考
バックホウ	油圧式
移動式クレーン	クローラクレーン、トラッククレーン、ホイールクレーン
ブルドーザ	

(2) 排出ガス対策型建設機械の普及促進

- ① 平成四年度までの取組み状況
- 平成四年一月一日「排出ガス対策型建設機械指定要領」を施行
 - 対象機種…トンネル工事用建設機械七機種(バックホウ、大型ブレイカ、
- より、移動式クレーンについて、開発・普及の猶予期間をみて、平成六年十月以降製造されるものを対象に直轄工事において、平成七年度からの使用を義務付け。)
- ② 平成五年度の取組み
- 平成五年七月二十九日「標準操作方式建設機械指定要領」の改正を通知。
 - 対象機種の追加…ブルドーザ
- (併せて、建設機械課長通達により、平成七年度以降新たに製造されるものを対象に直轄工事において、平成八年度からの使用を義務付け。)
- ・今後の対象予定機種として、トラクタショベル(車輪式)、ローラ、不整地運搬車、モータグレーダ以上四機種について検討中。

② 平成五年度の取組み

- 平成五年七月二十九日「排出ガス対策型建設機械指定要領」を改正施行

対象機種の追加…一般土工用主

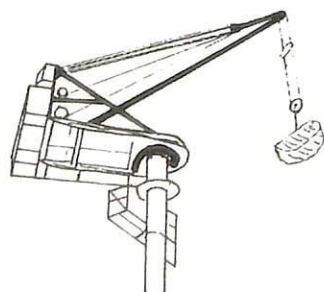
要三機種(バックホウ、ブルドーザ、トラクタショベル(車輪式))

(併せて建設機械課長通達により、開発・普及の猶予期間をみて、直轄工事において、平成九年度からの使用を義務付け。)

- ・今後の対象予定機種として、発動発電機、可搬式コンプレッサについて検討中。

別表2 排出ガス対策型建設機械

機 種	備 考
バックホウ	トンネル工事用建設機械：ディーゼルエンジン出力30～260kW(40.8～353PS) 一般建設機械：ディーゼルエンジン出力7.5～260kW(10.2～353PS)
トラクタショベル	トンネル工事用建設機械：ディーゼルエンジン出力30～260kW(40.8～353PS) 一般建設機械：ディーゼルエンジン出力7.5～260kW(10.2～353PS)、車輪式
大型ブレイカ	トンネル工事用建設機械：ディーゼルエンジン出力30～260kW(40.8～353PS)
コンクリート吹付機	同上
ドリルジャンボ	同上
ダンプトラック	同上
トラックミキサ	同上
ブルドーザ	一般建設機械：ディーゼルエンジン出力7.5～260kW(10.2～353PS)





工事におけるレンタル依存度も4割を越える状況です。それだけにレンタル業界自体が必要不可欠な存在となっているわけです。

その中で、建設機械のメーカーである私共はリース・レンタル業者の方々に単にお客というより、建設機械の流通の中で大きな位置を占めておられると考えます。

私共メーカーと実際に機械をお使いいただいているお客様との間に入っていたいて、とても重要なかつ大きなマーケットを構成していただいている、そういう捉え方を基本的にはしております。

現在、私共メーカーは本当にユーザーに合った機械というのは、何だろうと模索している状況です。

従来あったものを効率を良くしてコストを下げるとか、いかに使いやすくするとかをメーカー、施工業者、そしてレン

ター業者が個々に行っていくのではなく、三者一体となつて考えていかなければならぬと考えています。

又、機械の整備教育等のソフトの面でも、私共の教育機関、設備、その他がありますので私共のノウハウをご提供できればと思っています。

基本的には、メーカーとリースレンタル業界の方々とユーザーの方々とで、価格面や色々な面でお互いがキツイ思いをするのではなくて一緒にやってどうするかを考えていく。そんな時代が来ているのではないかと思います。又、メーカーとしてもそれを期待しています。

司会 ありがとうございます。

製造業者、レンタル業者、メーカーの三者一体の協力関係、それに基づくソフト、ハードの開発が大事だということだと思います。

続いては、メーカーのD様、お願いします。

メーカーD 私の前任地でも、こういう集まりはありまして、機械を使う側と貸す側とメーカーの三者で話し合いをしたことがあります。我々メーカーとしては、量を作ってコストを下げながらバブルまで来たんですが、最近では国内そして海外とも不況で売れないという状況です。油圧ショベルについては全体の35%ぐらい、比率としては全体の需要の3割

から3割5分はリース・レンタル業者さんに購入していただいていたんですが、現状では2割、約20%ぐらい落ち込んでいます。全体の総需要が下がり、なおかつ比率が下がっていますから、メーカー側にとっては非常に厳しい状況にあります。ですから、まあ何とか買って下さいというだけでは、やっぱりこれからの時代はそうはいかないだろうと思います。どちらかというと、今まではメーカーの勝手で、メーカーが作ったものを、それしかないからお買い上げいただいたということなんですが、実際蓋を開けてみますと、もともとメーカーサイドで実際のユーザーのニーズを反映したものを提供して、業種別に、施工別に、こういう機械の方がいいんだというような物を作っていないかと思っています。

それから、私達の会社も正直言つて、リース・レンタル業者さんに対して会社をあげて働きかけをするということにつきましては、ほとんどが現地現地の営業にまかされているという状況でして、いわゆる業界ぐるみのメーカーとしての対応をどこまでやってきたかということに対しては非常に疑問がありまして、出先の営業の力関係で買っていたりしていた部分があります。

我々メーカーとリース・レンタル業者さんと施工なさるゼネコンさん及び一般

現在経済環境は誠に厳しく、その、さなかに業界の展望について語ることは甚だ困難なことでありましたが、出席者の方々からは熱心に意見を述べて頂きました。

今回は、始めに全員からテーマについてご意見を述べて頂きましたため、意見のキャッチボールの時間が少なくなつて終い、結果として「激動する建設機器レンタル業への提言」と言った内容となりました。

司会 大変お待たせしました。最初に広報委員長のレンタル業Dさんよりごあいさつをお願いします。

レンタル業D 本日は何かとお忙しい中をありがとうございます。広報担当をしております関係で、第40号の全建リース協の会報に「建設機械器具レンタル業今後の展望」と題しまして、皆様のお知恵を拝借したいと思っております。沢山の方の出席をいただき、ありがとうございます。私が申すまでもなく、もうバブルがはじけて28ヶ月にもなるという昨今ですが、景気は非常に低迷し、ご他聞にもれず、我々レンタル業者にも大きくのしかかっております。又、日本の昔からの風習ともいえる談合や贈収賄問題もクロー

ズアップされ、入札も各地方自治体が独自に方法を施策し発注をしておるのが、昨今の現状ではないかと思えます。尚、建設省においても、入札方法を透明にし、公明な入札方策を検討中と報じられております。

厳しい中においても、ユーザーのニーズに沿って機械器具を供給するのが私共の使命であり、ハイテク技術の結晶ともいえる新製品の認識及び新工法の集約による保有機の適正化を図りプロとして、発展を望みたいと思えます。

本日は建機を作っておられる我々全建の賛助会員の中から独自にビックアップさせていただき、いろいろ教えていただくと思っております。

又、ユーザー側代表といたしまして建設業A、建設業Bさんのお二方にもいろんな意味でアドバイスをお受けいたしたく、お願いいたしました。

私共の場合、共存共栄と言葉は簡単ですが、実行は難しい現状です。

我々の環境は予想以上に厳しく、東京近郊でも昨年3月からあいつぐ不祥事件、倒産が発生し、負債総額も4、000億円とも報じられております。未だ歴史が浅いこの業界において、自然淘汰は不幸と言わざるを得ませんが、信用問題、金融支援についても追い討ちをかける厳しい面があるかと思われれます。このよ

うな環境を踏まえ、方策と申しますか、ご支援を賜れば、マイナスの潮流の中でも、お客様に満足の得られる企業でありたいと思っております。

我々1、300社のグループを構成しております全建リース業協会が主力となつてがんばって行きたいというのが一つの目的ですので、何卒ご協力の程、よろしくお願いいたします。

司会 メーカーの方々から私共レンタル業者に対して、このような厳しい情勢の中でお互い前向きに事態をとらえ対応を進めていくためのアドバイスとか、ご意見、ご要望等頂戴できればと思います。メーカーのC様、よろしく願います。

メーカーC 私共の会社では機械の売上の3割を越える機械をレンタル業者の方々に購入して頂いています。

又、このパーセンテージにあるように





インの商品にしていたかという発想がありましたので、なんとかメーカーでできるご協力ということで、こういうことかなと考えています。我々の高所作業車というのは慣用性がないものですが、下取ったものが国内で転売できない、また海外でもルートが開けないというところで厳しい面があります。お客様も苦しい環境にあるだろうし、我々も多少の痛みはしょうがないじゃないかというところで、出来る限りのことは、今やらしていたでいますし、全国の第一線の営業部で浸透するように進めています。やはりこういう環境ですとメーカーは売らんかなというところが強くなりまして、そういった状況を少しでも改善してお客様にやり易いようにと進めております。

それから今後の問題ということで、地域レンタル商品として価値ある物とい

されますが、メーカー、レンタル業者、ユーザーでこういった問題を真剣に考えていく時代かと思えます。

司会 ありがとうございます。

高度成長が終り、現在の厳しい状況を構造的な問題として捕えなければならなくなっているわけで、今後どのように協力して対応をはかっていくかというお話でした。

それでは続きましてメーカーのE様にご意見をお願いします。

メーカー E 私どもは、元々は電力関係やNTTさんと仕事をずっとやってまして、レンタル業者さんのお付き合いは建設機械の建設用高所作業車からで、実際のお付き合いをさせていただくのは10年ちょっと前からです。その中で私達の建機の中での高所作業車はレンタル業者さんが8割から9割位と高く、一般のお客様はほとんどおりません。

先程からいろいろ一身体という言葉がよく出ていますが、私共は実際のところレンタル屋さんにも物を買って上げたのだくのに、どういう風なことをやっていったらいいのかということを当初考えまして、今まではどちらかというと、レンタル屋さんの需要開発ということで、買っていたのはレンタル屋さん、お使いいただくのはゼネコンさんということ、どちらかというとゼネコンさんや設



備屋さんへのPR活動に比重をかけてまして、あまりレンタル屋さんに対する活動というのはしていなかった。そんな関係ですとしまして、バブルである程度建設機械の需要の方も伸びたんですが、今現在はバブルがはじけてまして、非常に苦しい状況にあるわけです。うちの第一線の営業部もどちらかというと、お客様にとつてそれがいいことかどうかということよりも、何としても買ってもらいたいということなんです。私共は高所作業車しかないのですが、お客様の持ちの機械の中で稼働のいいものと稼働の悪い物がありまして、稼働の悪い物を下取りに出していただいて、稼働のいいものを入れていただき、ご協力をさせていただこうということで、全部ではないのですが、一部そういうことを始めた所もあります。元々は、レンタル商品として私達の機械を取り込んでいただいて、それをメ

だと考えます。確かに海外工事に於いては、ZOや騒音等考えなくても良いという判断もあるかもしれませんが、やはり今後は進めて行かなくてはならないと思います。

また、自動化・機械化についても、今まではハードの部分のみ考えてまいりましたが、今後はソフト面に力を入れ、ハードとソフトを一体化し、熟練工でなくとも使用出来る機械を製作しなくてはならないと思います。

レンタル業者さんには、ユーザーとメーカーの間に入って頂き、種々のニーズに答えられる様、例えばA社とB社の施工方法が異なっても、両方に一機種で貸し出しできるアタッチメント等を考案出来るようにレンタル業者さんの技術者を養成して頂き、ユーザーニーズを吸収して、広くユーザーに提供して頂きたいと思えます。

それと、もう一つの問題としてちょっと言い過ぎかも知れませんが、レンタル業者さんの健全化と言う問題に真剣に取り組まなくてはならないかと思えます。これは、ユーザーとメーカーが一緒に、より良い製品を安全に適正価格にて使用して頂く事だと思います。メーカーも売れば良いと言う事だけでは、問題があるのではないのでしょうか。私どもが作っている製品につきましては、ポ



司会 ありがとうございます。皆様の話の中でも成熟した日本経済の中におきましては、増収が思うように図れない状況が出て来ている訳ですが、一方でコストアップの要因はますます高くなっています。例えば環境保全の問題、公害対策、それから労働条件改善や労働安全対策などですね、あとやはり設備機器につきましても、整備や維持管理にはお金がかかるということが、まわりで一杯でございます。そういう中で企業の健全化をすすめて、メーカーさんの立場からすれば安心して売れるレンタル業者になってください、発展してくださいと、こういうお声がかかる。しかしながら、受注は非常に苦しい、それから過当競争が激しい。こういう中で当協会の流通委員会がこの問題につきまして非常に悩んでおる訳でして、ぜひその辺のところについても皆さんからアドバイスいただきたいところ

なんです。流通委員長でありますレンタル業のAさんよりご意見をお願いしたいとおもいます。

レンタル業A 流通委員会で委員長をやっておりますレンタル業Aでございます。なにぶんこの業界もやっと約40年になろうかというような、本当にまだ浅い業界でございます。そのために、非常に弱い体質だというのが実感でございます。約8割から9割方は資本金一千万未満の会社であるというのが実情でございます。

それと共に、体質が弱いだけに人材が非常に手薄である、充足が思うように進まなかった。会社としての勉強というものが十分できていなかった。ただ入れれば売れる、売れば要するに整備する、そういう風な形でこの業界は来ておったんじゃないだろうか。今日までリース業という業種の繁栄により当業界そのものの体質が強められたと思います。それと共に今後におきましても、やはりこの体質強化はもろろんのこと、メーカーとユーザーの中に入って我々が役に立つというところは21世紀に向けての我々の、大事な仕事であると肝に命じております。

それと共に昨今は、相当厳しい状況でございます。厳しいだけに、値段の乱発化というものが出て来ております。昨今

流通委員会を開いておりますが、雨天休日をサービスしろというような問題が、各地で発生しています。私は冗談じゃないよと。このリースというのは、出してから返って来るまでがリースの本質だと。そのために実際は高いヤードも借り、高い機械も買い、高い金利を払って我々はやっておるんだと。出してから返って来るまでが、これがリースの根源だと。

これが雨が降ろうが休みだろうが、実際に使っていないと言われても誰も証拠がない。いちいち、見に行く訳にもいかない。当協会の「定」には「賃貸期間中、日曜祭日、並びに雨天に拘らず賃貸日より返却日までの計算として使用料金を申し受けます」と明確に規定されています。お客さまと私どもは共存共栄でございますので、私どもとしては襟を正してご説明をしてご理解とご協力を賜りたいと思っております。

それと共に昨今、大手のリース屋が倒産したというニュースが入ってきております。これは昨今だけではございませんが、この業界の面白いところですが倒産しても、まだ仕事をやっておる。これが、非常に面白い業界なんです。さあ、何故それが出来るんだらうか。それを支援することを含めて、大きな問題となっております。これを考えていかなければ、値段は無茶苦茶になっていくし、これを放

ピューラーな機械ですので80%近くのレンタル業者さんが、某かの台数をお持ち頂いておりますが、レンタル業者、ユーザー、メーカーが一体化して、三者が各々利益を享受できる様になくなくてはならないと思います。

新年にあたりましては、昨年の二の舞を踏まないように、資金についてはやはり健全なファイナンス計画とレンタルのシステム化を考え、1994年もユーザー、レンタル業者、メーカーの全てに落伍者が出ない様、お互いに努力していきたいと思ひますし、お互いにそう考えるべきであると思ひている次第です。

司会 それでは、メーカーのB様、よろしく願ひいたします。

メーカーB 私たちメーカーの状態というのはバブルが弾けて総需要は大きくならない時代が来たのでありまして、ちなみに日本経済が来年は立ち直る方向へいくにいたしましても、日本経済そのものが、もう現に成熟化しております。かつてのような高度成長はもう考えられない。日が沈むとは申せませんけれど、そういう時代は完全に終わったという風に私は考えます。原因としては、いかにこの円高というのが我々製造業にとって大変な痛手であるかということでございます。これは建機業界だけでなくもともとと厳しい問題も踏まえまし

て、円高の後続問題各種のため、私共のような小さな業界でもいくつかの影響が出ております。

さて、レンタルの業界では全く円高とは関係がないんで、私にとっては羨ましいと申します。我々はレンタル業界の皆さんにより発展をさせていただいて、なんとかついていかなければならないなと、いう風な実感でございます。レンタルニーズは、基本的に増加しても減少する事はありません。業界内部の協調を強化されて健全な御発展を期待しております。

そこでレンタル業界の皆さんは、エンドユーザーのニーズに対応した機械を導入される訳ですから、まず皆さんの方が、態勢を整えて利便を図るのがひとつ、その内容は小型機といえどもいわゆる公害問題に対応したり、色々な形の近代化と合理化が、必要です。近代性、合理性ということになりますと色々な面で価値観というものが変化してくる、例えば汎用性と専用性の二極化や特殊仕様による多種少量生産等、この辺のコスト高を吸収して経済性を生み出せるのであろうかというところで、具体的には私共としては大手メーカーさんの動向を見ながら対応していくのが精一杯である、というような感じがいたしております。

従ひまして、バランス経営というんで



しょうか、自らの力の限界に応じた形での長期ビジョンに立った経営姿勢を取らないと、この先伸びにつながらません。

そこで現実を踏まえ、見極めながらユーザーさんとレンタル業界の皆さんから見価値観というものを共に研究と情報交換しながらニーズの多様化にこたえられるか、そして稼働率と投資効率の高い製品を開発して新需要の開拓が出来れば理想と考えております。

さて、国際的に経済の活性化の為にIMFの強化しか方法が無いと考えます。この地球上、物は欲しいんだけどお金がないという、市場がたくさんあります。最終需要が低迷している先進国内で資金が循環している限り、新興市場に資金が流れるパイプを作る必要があるからです。私の私見として、そんなことを考えている訳です。余談でございました、以上です。



した形で生き残って行くためにはどうすればいいのかが、大きなテーマになってくると思います。機械さえもってれば誰でもリース・レンタル業が営めるといふ体質からの脱皮こそがそのテーマになると思うのです。即ち言い換えれば、機械をレンタルするだけではなく「サービス」や機械を使用するうえでの「ノウハウ」をレンタルするという形に変えて行くことが、重要な課題だということだと思ふのです。『きちんとした品質管理』を実行し、『単価』の競合ではなく『サービス』の競争をすべきだということです。当協会が『第2次構造改善事業』に取り組んで既に3年目に入っているわけですが、未だに自分のことではなく、他人事のように捉えられている会員も少なくないように感じてならないのは、私の気のせいだけではないように思います。先程も申しましたように『きちんとした品質管理』

『品質管理』をすることこそが、生き残りの最低の条件だと言いたいのです。品質管理と言うと機械だけの品質管理と考えがちですが、そうではなく『機械』と『人材』を意味しているのです。言い換えまると『リース屋さん』からきちんとした『リース・レンタル業』への変身が必要だということです。したがって『第2次構造改善事業』を再度確認し、意識を高めて行くことがとても大事なのです。『第2次構造改善事業』への本気での参加こそが、この不況を乗り切り自分たちを救うことの出来る方法だと信じて止まないのですが……。

司会 ありがとうございます。それでは続いてレンタル業Dさん、お願いします。

レンタル業D 実は1昨年4月にレンタル業者への今後の期待と題し座談会を催し、その席上でメーカーとレンタル業者に反映出来るセールスポイントは何か、付加価値を上げるにはどうあるべきかを論じた訳です。メーカーの思想として居住性、操作性、環境にマッチした製品ということが大勢でした。先程流通委員長より話がありましたが、需給バランスが崩れ、稼働率の低下による、売上げ維持のためのダンピングが多発しておりますが、レンタル業者の企業特性がない



のもその一因と思われます。メーカーでも、需要の低迷で大変と思われませんが、最近の傾向として、自動車感覚で建機の製造をしておられると思われませんが、デラックスは一般需要家（ユーザー）へ、カスタムはレンタル業者向けと聞いておりますが、その発想は間違っております。相違点は簡単に言って、デラックスはクレーンを始めとした居住性を主眼としており、カスタムはクレーンも無く単に作業が出来れば良いと極論されております。その理由は販売価格を安く、拡販する。又、レンタル業者も顧客に安く供給出来る等だと某社のセールスマンが言っていました。私事ですが、むしろ当社では、バックホーにしても購入機は全部デラックスタイプです。顧客の身になり、作業効率を



置しておつたら、とうてい安値でも実際に動く訳で、業界ぐるみでおかしくなっています。これがはつきり言いまして、値段を大きく崩す一つの問題点ではないだろうか、私は思っておる訳でございます。

司会 ありがとうございます。当業界の非常に厳しい部分を、委員長にお話をしていただきました。次にレンタル業Bさん、お願い致します。

レンタル業B 色々お話がありました。私のところは一般の機械です。高稼働を目指すのがリース会社なんです。が、今回の不況は、よくある形での不況ではないんじゃないかと映っているんです。

現実には、我々が商売を始めたのは28年くらい前なんです。が、その頃は稼働率が98%位と非常に良かった訳です。ところが現在、非常に稼働率の落ち込

みが激しい。専門業者なんですから稼働率は原価算定する時に、もうちょっと上げてもらわないと原価算定できない。今の状態の稼働率ですと、どのような組織をもつてしても赤字になってしまふ。

誰が計算しても償却の金額にいかない金額で営業される方がいらつしやる。このダンピングというのは、あくまでも対抗上やる訳ですが業界では非常に大きな問題となっています。

司会 次にレンタル業Cさん、お願いします。

レンタル業C 今までのリース・レンタル業における設備投資に対する考え方は比較的簡単でした。景気が良くなれば大量に機械を買い込み、悪くなりそうだなと感じたら買い控え、また良くなれば……の繰り返しで言い換えれば井勘定的な設備投資の仕方でも、そう大きな失敗はしなくて済んだような気がします。

またバブル経済盛んなころは各メーカーもユーザーニーズを取り入れての機械改造にも協力が得られましたし、新機種の開発にも積極的だったように思われます。

過去に何度か経験して来た不況時には、政府が実施してくれる不況対策、す

なわち公共投資最優先の政策による恩恵にあずかり、結果的には深刻な不況を感じずに済んでいたような気がします。ところが今回のバブル経済破綻後の不景気は『不況』を通り過ぎて『恐慌』の予感さえ感じさせる深刻なものになって来ています。既に1カ年を経過してもなお回復どころか『底打ち』すら確認が取れない状況の今日、追い打ちをかけるように『田高』や『ゼネコン疑惑』『談合疑惑』の不安材料が山積みです。

リース・レンタル業界は一兆円産業とも言われるほどの成長を遂げて参りましたし、協会会員も増えて充実して参りました。が、反面過当競争が激化しダンピングを繰り返して、更に他社との差別化を図る意味でも、ユーザーニーズに対応する意味でも最新の機械の導入を進めて参りました。まるで戦時中の『生めよ増やせよ』みたいに、『機械を購入すれば売上が上がる』図式が構築されていたようにも思います。ところがそこへ今回の不況の到来です。購入し過ぎた機械は市場にあふれ始め、過当競争の原因を重複する結果になっていきます。再びダンピングが激しくなるという悪循環を繰り返してしまふことになり、経営基盤そのものが揺るがされる所へ追い込まれている現状にあります。

そう言った中で、この業界できちんと



土屋 誠

空間がある訳です。色々な空間がある。その空間部分を、施工する側とすれば埋めなければなりません。そうすると埋めるためにはやっぱり自社の機械を保有しそこを埋める。特殊機械はもちろんのこと、一般の機械でもそこいらの空間があり、空間というのはいわゆる機械と機械の間もありますし、地域的な問題もあります。そういう空間を埋めてくれるようなレンタル業者があればそちらに移るけれども、それがなければ自分のところの機械を持って行くしかない。

それともう一つは、一般的な機械はレンタル業者が発展してきたのでそれで埋められる可能性が多いが、やはりどうしても特殊な機械は、先ほど来のお話の通り工事もすごく多様化してきていますからね、その多様化している工事に合わせていろんな種類の機械が、ちよつと形を変えたものとか新しい機械だとかが出て

来ました。これら特殊な機械が出て来ますと、どうしてもあまりリース会社さんの方がむしろその敬遠するといえますか、ちよつと様子を見て処理しようじゃないか、そういう傾向が当然のことながらあるもんですから、そうすると先ほどの話ですけれども、建設業者とすれば、やはりそこらの機械を積極的に取り入れないと、ゼネコン同士の競争に負けることになり、また工事の出来栄その他にも差が出て来ます。やっぱり新しい機械をどんどん入れていかないと後列になります。ゼネコン側というかユーザー側から好き勝手に言えば、そのあらゆる機械に対して提供してもらえないような体質、それから新しいものに対して積極的に取り組んでもらえる体質ですね、そこいらをレンタル業者さんに求めています。

以上が、ゼネコンサイドの建設の現場、サイドからの意見であります。また最近、レンタル業者さんたちのネットワーク化などが進んでおりますので、先ほど言いました情報のやりとりとか機械の提供の穴を埋めるとか、種類の穴を埋めるとか、それは大分進んでいるようですけど、なお一層将来的にはそこらを進めていただいて、ゼネコン機械部が一般的な機械をあまり持たなくてもいいようにしていただきたいと考えています。

高めていただき、その付加価値を認めていただくべく、当社の営業部員を指導しております。

バックホーの普及率が43%（建設省調査）とレンタル指向が伸びておる昨今ですが、メーカーでもICの導入やモニターの開発、採用等による素人でも出来る安全性の追究及び操作性の簡略化等、技術革新に取り組んで居られると思います。先程も話がありましたが、レンタル業者の平均稼働が30%（年間）ですので、バックホーを例にしますと購入代金を稼ぐのに7年間と思いますが、これはレンタル業者が算定基礎を設けずに、長期ファイナンスリースによる機械の導入及び市場拡大政策を強力に推進する業者が、資金のバックアップを受けながら躍動しておりますが、レンタル業者の健全育成を望むのであれば、機械の償却は法定償却内で、又ファイナンスを組む場合も回数の短縮による取引等についてメーカー及び商社の御指導をお願い申し上げます。顧客のニーズに応えるには、採算を度外視しても購入をする。これでは健全経営とは言えないと思います。

話は変わりますが、先日広域業者の常務さんより、高所作業車のレンタルについて、労安法等による10メートル以上の作業車の稼働が非常に悪い。その要因は技能講習終了者が非常に少ない。メーカー

であるメーカーさんに、技能講習者の養成について積極的な働きかけを是非お願いし、投資効率の回復に努めたいとの事でしたので、何分にも協力をお願いします。以上です。

司会 メーカー様とレンタル業者のご意見をお聞かせいただきましたが、この中には要望事項が沢山入っております。今度は建設業者の方のご意見をいただきます。と思いますが、建設業者のB様お願いいたします。B様は大手建設業者の管理職を経験され、現在、関連のレンタル業で活躍中とございまして、両方の立場がよくお分かりの方でございまして、

建設業B 建設業Bでございます。今ご紹介ございましたように私はゼネコンの、機械部に二十年ぐらいいおりまして、その後機械部を離れまして、同じゼネコンの技術開発部門と、建築の技術部門に約四年ぐらいいりました。それから後またゼネコンの機械部を分社化した部門が今の会社ですが、そちらの方に一年前に戻って来ました。それで今のお話のように、いわゆるゼネコンそのもののニーズと、すなわち実際に施工の舞台の中にいて見た面と、以前いた機械部、それから今いるリース業界を自分の立場で、いろんな角度から見させてもらいまして、私の感じたことを申し上げます。まず、ゼネコンの方から機械部門に対して求めている

ものは、やはり品質管理でよく言われるんですがQCDSですね。具体的にいいますとQは品質の問題です、それからCはコストの問題、それからDはデリバリーといいますがサービスのこと、故障した時の対応等です、それからもう一つSはセーフティ、安全の問題です。要はその四つを、いかに自分の現場の機械ニーズにあわせていたりとかあわせてくれるかどうか、というようなことですね、そこが常に現場が求める一番基本的なことなんです。それを、現在はゼネコンの機械部門がなっているのです。ところが本音は、ゼネコンは出来れば自分の所で保有し施工するよりは、借りて来た方がその施工にびつたり合った機械を手配でき、また手早く近くにあるヤードから運んで来れるのでレンタル業から、全ての機械を借りることによって出来るんだらうかと思っております。すなわち先ほど申しましたQCDSが満足できれば、レンタル業者さんから借りて来ることの方が良いと思っております。

ところが、今まで問題だったのは、レンタル業者さんの方もやっぱり自分の商売にプラスになる必要がある為、各会社の特徴もございまして、機械を保有するヤードも色々ございまして、当然のことながら、ゼネコンが求めるものに対して

しますと、現在一番問題なのはシェアの縮小と、その結果稼働率の低下です。これを克服する為に我社として考えているポイントが幾つかあるんですが、それを紹介させていただきます。

んじゃないか。

リース業界も同じような機械でパイが小さいところで、同じパイで競争するよりも、もう少し上の方とか横の方で、なんとか出来ないかということを、最近志向しております。まあレンタルの立場としますと、そういう風にしていけないといけないと思います。それとも一つは、あの一挙に施工まで行かないまでも、ソフトと言うんですか、いわゆる施工計画とか、安全のその他先ほどから言っていました人材確保までを含めまして安全のソフトまでを一体にした提供と言うことが、我々が目指す特徴だと思います。今後はお客さんに対して我々レンタル業として、そこらまでやらなければいけないんじゃないかと考えています。以上です。

司会 そうですね。建設業者さんからのご意見とレンタル業者としてのご意見を頂戴致しました。それでは建設業者のA様、よろしくお願い致します。

建設業A 私はユーザー会社の機械部で事務部門、主に調達と渉外関係を担当しております。そのためこの協会にも6年程前から、お世話になっていて構造改善事業等にも関係したため、多少なりとも皆さんの業界のことを勉強させてもらいました。

先ほどから聞いておりますと経営の安

す。今建設業は安全が一番の課題の一つです。

我々ユーザーが知恵を出し実際に使いたいものをメーカーさんと協力して製品化し、それをレンタル業者が保有し、私共が使う。もちろん皆さんにも知恵と技術を出してもらう。この三者はやはり一体となって、協力していかなければならないと思います。それが各々の経営基盤に繋がるものだと思います。

今、建設業は3K、と言われ建設作業員は少なく高齢化しております。そこで機械化が益々進み、ロボット化が今後かなり研究され、実用化されると思います。また、ハードからソフトの分野へも進出していかねばならないと思います。ハードだけでは将来残り残されます。皆さんの業界もかなりの曲がり角に来ていることだと思います。そこに先にメーカーAさんがおっしゃった、地球環境の問題が出てきます。皆さんの業界も段々とペーパータ的な会社と専門分野の会社と分かれてくると思います。いわゆる汎用機は何でもあるという会社と、専門分野の特殊な機械を保有して全国的に、営業する会社という分かれ方も今以上に発展すると思います。

汎用機にすれば土工協が毎年行っている調査においてもほぼつ頭打ちの時期にきていると思います。また建設業Bさ

定が一番皆さんが願っていることだと思います。この経営に一番影響力を持っているのはメーカーさんと商社さんであり、我々ユーザーはほとんど経営には関与しておりません。

先ほどのご意見にもメーカーあつてのリース業との発言もありましたが、この辺が少し根本的に問題があると思います。なるほど、今メーカーさんの経営規模から見ても、皆さんよりはるかに大きく、また間に入る商社さんも含めて、皆さんの業界に大きな影響力を持つております。しかしユーザーなくしては経営は成り立ちません。またユーザーの建設業はその規模は超大から個人企業まで非常に格差があり皆さんはそのすべてと取り引きをしているので大変とは思いますが、ユーザーあつてのリース、レンタル業と考えて頂きたい。また、今建設業は非常にきびしい時代でありまして、仕事の量も増えておりません。皆さんはメーカーさんから機械を買われ保有が増える。しかしユーザーの工事費は増えない。これでは稼働率は低くなるのはやむを得ない。このような中でどのような経営をしていくかが問われる時代だと思います。

稼働率が低いと言うことは、皆さんは、競争が激化します。ためにダンピング等も出てきます。我々ユーザーとして使う方にも問題はあります。工事はほとんど

んが言われたように、各ゼネコンのセンターが保有している機械を使って工事として一括施工する体制を取る傾向が多くなってきました。これはレンタル業でなく、施工業になってきます。今のレンタル業はそこまでは出来ません。

しかし今我々ゼネコンは現在、特殊なものを除き保有数は少なくなっています。そこを皆さんの業界へ依存することは解りきったことです。協会を出しているパンフレットにもあるように「優良な建設機械器具と精練した技術、行き届いたサービスの提供によって信頼と安心を届ける」企業に徹することだと思います。

司会 大変参考になるご意見を有難うございました。今までのご意見の中で、こういうことはもうちょっと詳しくとか、こういうことはどうなんだろうとかというようなことがございましたら、頂きたいと思いますがいかがでございましたか。

メーカーC 先ほど、建設業Aさんからのお話にあつたのですけれど、建設機械の今後の方向として二極分化という感じがしないでもないのです。

その一つは、レンタル業Dさんがおっしゃったように、汎用機の中でも付加価値をどういう風につけるかというのが大きな問題であると思うのです。

もう一つは、ソフトも含めた専用機を

は独立採算性をとっているため、担当者は安いほうに行くことは当然となります。それが適正価格を無視した物件がでてくるところに問題があります。この問題について契約の正常化も一つの課題と思います。私も機械化協会で建設業部門とリース・レンタル部会、合同の契約問題研究会に参加し、ここに出席しておられる、建設業Bさんそのメンバーでしたが「建設機械等レンタル標準契約と解説」という本を、日本建設機械化協会から発行いたしました。恐らく皆さんのお手許にもいつていることと思います。今日ここに出席の会社さんは各々立派な会社でありますので当然しっかりした契約をなさっていると思いますが、まだまだ契約すら取り交わさないレンタル屋さんもあるようです。協会のリーダーである皆さん方の指導が必要かと思っています。安全面を見てもいろいろ問題はあります。



どうしていくかということです。これについては今後施工というものがどうなっていくかという将来展望が必要になってきます。

そういった部分で新しい分野へどうやっていくのかという、もう一つの根本の方向のところでゼネコンさんの役割というものは非常に大きなものがあると思います。そういう面でのご指導を私共メーカーに対してお願い致します。

私共メーカーは、今の汎用機のありかた、それから専用機の方性をどうバランスをとっていくかを非常に悩んでいる状況です。

メーカーA そういう問題で一番ハッキリしておられるのは、プラントメーカーと電子関係の会社だと思っています。建設業者さんの場合は、共同研究がやりにくいようです。

プラントメーカーさんの場合、特色をもっておられる事と特許に力を入れておられますので、私どもはプラントメーカーさんとの共同開発が多いですね。また、IC関連のものですと、産学共同の開発が非常に多くなっています。

IC関連は先行投資が高額の為、システムについては公表されにくいのですが、長期計画にしたがって研究をなさっており、発売時期の5年前にはほぼ研究を終了しており、製品化を何時にするか

で同業者同士が凌ぎを削っている訳です。故にIC関連の機械は非常に長いスパンにて研究し、研究費用も合計では非常に高額になっております。

ところがお互いの特色を活かせる事により、建設機械はトンいくらとなる訳ですが、IC関連の機械はkgいくらと言う事より、ノウハウ、ソフト等の加味した価格設定をしている訳です。

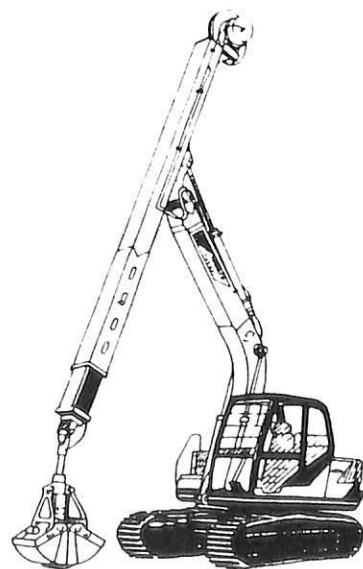
今では、プラントメーカー、IC関連機械が共同研究では確実性があるので、この関連会社さんと共同研究致してまいりましたが、今年度は建設業者さんとは是非、ハード・ソフトの開発に向けて、努力したいと考えております。

司会 色々ご意見を頂きまして、ありがとうございます。

それでは、一応総括をさせて頂きます。レンタル業者にとっては、ユーザーさんとメーカーさんの間にあって、ユーザーさんのご満足を頂くにはどうしたらいいか、それからメーカーさんにユーザーさんのニーズをフィードバックして、それに応えられるような製品の開発にどうやったらお役に立てるかと言うような役割機能が期待されていると思います。このことは、ユーザーさんとメーカーさんとのコミュニケーションをよくとって役割機能を高めて行くことだと思えます。

それから、高度成長期はもう完全に終わったという認識に立ち、成熟化の経済の中で量から質への転換に向けての経営努力が不可欠であり、とりわけQCD Sを追求して、レンタルメ리트の増大に努めることが肝要であるといったことだったと思います。

今日は本当にお忙しい中、有難うございました。



NEWS

平成五年度建設機械器具賃貸業管理技士試験合格者

平成五年十月三十一日(日)、建設機械器具賃貸業管理技士認定試験を実施いたしました。

今年も受験者は真剣に試験と取り組み合格率は五五%でした。

支部名	受験者数	合格者数
北海道	48	16
青森	12	2
秋田	11	4
岩手	17	6
宮城	25	14
福島	8	5
新東京	66	45
神奈川	3	2
長野	2	2
茨城	1	0
群馬	12	5
新潟	6	4
栃木	5	2
静岡	16	14
中部	42	22
富山	3	1
石川	3	1
福井	0	0
大阪	30	20
兵庫	7	5
和歌山	0	0
滋賀	3	2
中国	33	24
四国	19	12
九州	46	22
沖縄	0	0
合計	418	230

「平成五年度建設機械器具賃貸業管理技士試験合格者リスト」

北海道支部	加藤 良幸	山本 重徳	大淵 勉	伊藤 一二	畠山 功	佐藤 敦
駒澤 範朗	竹ヶ原 一男	岸本 雅人	秋田支部	荒木田 昇	岩手支部	清水 和彦
石川 敏幸	笠井 修平	原田 雅人	福田 幸一	石戸谷 卓二	宮城支部	清貴 則雄
堀 一敏	松山 政則	安藤 邦昭	蛇川 幸夫	福田 幸一	今野 清貴	皆川 昌之
熊田 信	坂田 正敏	馬淵 邦昭	児玉 幸生	高橋 誠	蛭田 政敏	大藤 健一
						嗣夫 禎顕

望月	明	植村	正	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一																						
中部支部	平野	健二	影山	孝春	山崎	重和	泰之	若林	順一	箱崎	康生	船戸	要造	武	武田	正史	鈴木	吉輝	小嶋	好幸	下向	章弘	鉄郎	順一	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一																																
山下	明彦	新潟支部	稲垣	幸広	横内	則和	回り道	池見	正	政本	直樹	日高	和彦	堤	後藤	宏二	知治	和彦	新次	武	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一																																										
坂井	守	富田	義秋	和宏	元治	敏広	一富	耕二	幸造	大脇	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一
土井	芳孝	山崎	元治	敏広	一富	耕二	幸造	大脇	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一		
日比野	稔	関根	一富	耕二	幸造	大脇	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一				
駒田	正人	小田	耕二	幸造	大脇	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一					
熊崎	尚樹	石川支部	四ッ井	幸造	大脇	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一					
浜島	春信	和歌山支部	赤岡	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一			
加古	博之	和歌山支部	赤岡	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一			
石原	佐多志	和歌山支部	赤岡	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一			
河江	清隆	辻	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一			
大島	一三	東	勝	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一		
曾我	勇	小池	勝巳	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一		
西尾	正敏	小柳	政美	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一		
浅見	寛	滋賀支部	政美	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一		
恵	末次	和泉	幸之	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一		
西川	正彦	大阪支部	幸之	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一		
田尻	和幸	盛	誠一	幸之	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一	
岡山	穂積	佐竹	大輔	誠一	幸之	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純	一史	輝行	田地	輝行	日置	亮	高橋	正広	大倉	正裕	金島	守	小沢	国男	森	涉	吉村	一史	松尾	幹人	坂口	和久	菅	均	南	幸壽	今井	幸宏	安藤	壽	真鍋	純	西田	辰郎	青木	晃浩	新名	誠司	要造	田中	哲朗	相良	文生	沖繩支部	上原	正人	山内	昌治	富次	安村	平敷	昌一	銘苅	清	仲宗根	嘉手納	睦	照屋	正明	津波	安	宮里	政純	仲間	繁正	青山	健二	小橋川	佑盛	石原	賢一
福本	七郎	川上	高久	大輔	誠一	幸之	司郎	英司	三好	茂	勝康	照男	幸弘	肇	好則	弘士	達久	邦夫	智樹	則和	好幸	重和	泰之	純																																																																						

鈴木	高橋	高橋	松島	橋本	北村	千葉	工藤	岩手支部	工藤	吉田	八幡	戸田	高橋	山本	古山	本波	平賀	菅原	秋田支部	田中	嵯峨	古戸	中田	桜田	杉本	阿部	南波	鈴木	早坂
淳	満	初則	義光	政幸	幸弘	誠	修吾	景三	勝也	照美	勇紀	俊一	昭寿	浩行	晃	憲二	耕也		忠男	正俊	久志	茂	末春	利信	万	忠	徹	直弥	
中庭	加藤	伊藤	佐藤	宮城支部	稲木	佐藤	森	小野寺	真山	佐藤	蓮沼	山口	菊田	長谷川	長谷部	森	鈴木	大沼	長沢	芳賀	蛭田	若松	寒河江	関口	平井	小坂	二木	鈴木	浜谷
秋信	茂雄	実	文隆		孝	訓	健	文義	栄一	正典	健一	孝志	啓寿	勇雄	秀一	純一	庄一	清男	義光	均	浩	信也	繁敏	博	貞浩	三彦	正宣	光雄	一栄
日ヶ久保文雄	永瀬	佐藤	三井	福島支部	永山	杉本	佐々木	橋本	渡部	笹原	能登	小林	寺本	宮本	仲田	五十畑	上和田	嶺井	小泉	村上	群馬支部	佐藤	江連	北川	井島	池田			
	和博	紳	皇也	英一	忍	弘	幸	純	文一	久司	美光	隆仁	範男	正一	久	直樹	光宏	辰也	恵一	喬	寿男	誠	清司	通弘	清人				
本間	宮下	大口	野本	丸山	中野	松本	湯本	清水	青野	宮口	弓削	内田	柳谷	戸村	茗原	森山	岡部	御園生	阿部	柳沼	嶋田	西尾	野口	八木	中川	桑原			
貢	隆弘	秋男	啓志郎	満夫	一	和彦	得一	和一	富雄	博	静雄	英樹	裕行	英二	輝夫	信雄	好昭	隆	治男	啓治	政広	智己	二朗	宣長	博幸	靖			
萩原	阿井	岩永	若佐	二ノ宮	三好	山根	山形	入江	敦賀	大矢	角井	菅原	小野	高野	飯嶋	三上	田中	桜井	小川	八代	原	佐藤	宇於崎	牧野	高橋	塚越	吉田	大野	
勝幸	一則	裕之	寿一	久夫	秀治	武人	直人	裕一	昌彦	修	正昭	久夫	浩史	修一	正雄	勝治	年	正信	正勝	武男	宏平	裕志	晴康	一彦	清司	紀明	年宏	拓	
大石	小堀	加藤	曾我部	石山	山田	後藤	梅沢	平田	小林	白鳥	瀬川	春日	佐々木	菊池	國分	佐々木	草川	佐藤	明田川	斉藤	菊池	芝崎	宇賀神	野沢	武田	前田	小川	米澤	
昇	利勝	修一	豊	滋雄	俊史	俊喜	晃	隆	茂	喜久	和男	友宏	英幸	宏式	清秀	孝易	信之	啓一	慎也	裕司	琢磨	敏彦	栄	一彦	一宏	正男	季樹	弘	
竹上	武田	佐藤	太田	舟山	中村	神奈川支部	大村	小林	片上	松村	阿部	八長	小笠原	佐藤	今井	相原	宇田川	立石	小松	菅野	天久	須田	静岡支部	伊藤	井口	平戸	国枝	亀澤	
勝広	浩一	国雄	朋孝	長則	清		堅英	利道	隆一	和彦	良昭	勝美	博信	孝夫	光夫	朋広	康男	彰	伸三	文雄	勝	文雄	文雄	敏広	操	勝治	正幸	正樹	

LETTERS BRANCH

支部だより

■秋田支部

「秋田の竿燈まつり」 (国重要無形民俗文化財)

八月に入るとみちのくもやつと夏らしくなり、東北三大まつりが行われる季節になります。その一つ、「秋田の竿燈まつり」をご紹介します。

竿燈にはさまざまな起源説がありますが、「眠ぶり流し」と呼ばれていた睡魔払いのお盆行事だという説が有力とされており、昔は「夏になると労働が激しく、暑さも厳しく、つい眠くなる。眠っ

ているときに病魔がからだにしのび入り、眠り病にかかる」と思われていたようである。それで昔の人は、睡魔を退治するために眠り流し「竿燈」をおこなった。

又、その昔、新佛のあった家では、お盆に精霊を迎える際、門前に高さ十二・十三mにもおよぶ杉の細長い長木を立て、その横に横木を結び、これに燈籠を下げ、この長木を自由に持ち歩けるようにしたのが竿燈の始まりともいわれています。

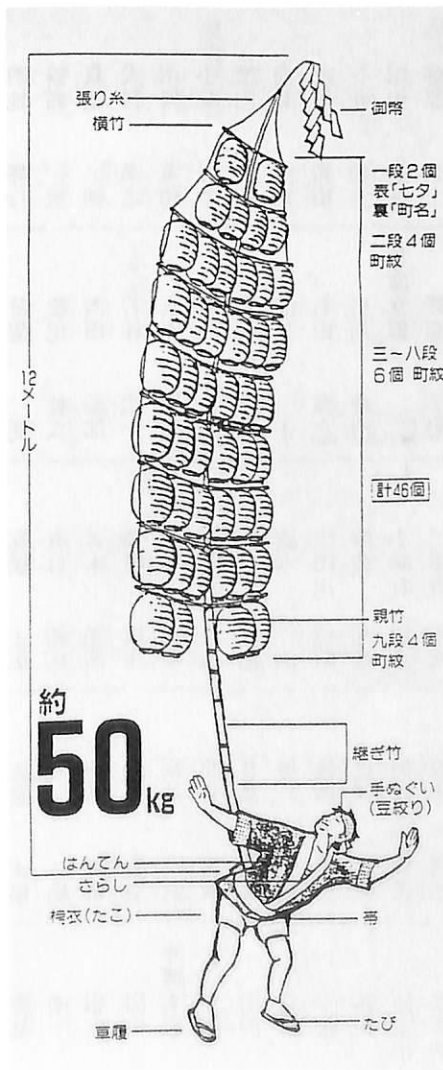
(竿燈と呼ばれるようになったのは明治十五年頃)

竿燈には、大若・中若・小若と

ありますが、中心になるのは、なんと一つも大若です。

長さ八mの親竹に三mの横竹を七段、二mと一mの横竹を各一段、計九段を縄で結び四六個の提灯をつるして火(ローソク)をともし、これに二本の継ぎ竹をあわせると高さ約十二m、重さ約五十kgにもなります。

竿燈の技の基本は明りを消さないように常に安定させて、高さ十二mの竿燈を静止させることは至難の技ですが、風のあおりを受けて弓なりに傾くこともあり、からだを移動しバランスをとらなければなりません。



■福島支部

東北の最南に位置する福島県は、ここ数年交通網の整備が着々と進んでおります。

一、福島空港が開業

東北で唯一空港のなかった福島県は今年三月二十日開港し、現在福岡、大阪、名古屋、札幌に就航しております。

特に札幌便は、塔乗率が八四%と最も高く、四路線の平均塔乗率も六五%となっており、予想を上廻る利用客を集めております。

国際チャーター便も、韓国、シンガポール、中国など順調であり将来、成田空港の補完港として注目されており、県は現在の二キロメートルから二千五百メートルへ滑走路の延長を目指しております。

二、磐城自動車道の工事進む

東北地方を縦に貫く大動脈、東北縦貫自動車道に対し、福島県いわき市の常磐自動車道を分岐点と

し、県中央の郡山市、会津若松市を経て新潟市の北越自動車道と関越自動車道に結ばれる総延長二一〇キロメートルの高速道路は、平成七年に福島県で開催される第五十回国民体育大会時まで開通すべく、工事は最盛期に入っております。

手のひら・額・肩・腰などに乗せ、なかには、ここが男意気の見せどころとばかりに、三本、四本と継ぎ竹をし、夜空にひととき高くゆめめく竿燈もあります。

竿燈のお囃子は、佐竹義宣公が転封になった時、以前の城下町・常陸の天神囃子が伝えられたといわれ、竿燈の豪華絢爛さにも似て、勇壮なにぎわいをもっています。

秋田っ子、特に竿燈人にとっては、この音を聞くと血が騒ぎ出し、じっとしていらなくなる。

お囃子には「流し太鼓」と「本太鼓」の二つのリズムがあり、竿燈が町をねり歩く時は「流し太鼓」を、また竿燈を立てて演技をおこなう時は「本太鼓」を打ち鳴らします。この勇壮なお囃子は真夏の暑さを吹き飛ばし、竿燈の差し手にとってはその疲れを忘れさせてくれます。

竿燈が額や腰などにうまくずわると「ドッコイショー、ドッコイショー」と囃したてますが、これは竿燈がうまくずわり、根がついたように動かなくなったという誉め言葉なのです。

日が暮れて、心地よい風が市内を吹きぬける頃、山王大通りにはお囃子が響きわたり、続々と竿燈が集まってきます。

行進用のお囃子「流し」にのって三七町内と職場、会社から二〇〇本(提灯の数一万个以上)の竿燈が山王大通りに勢揃いし、笛を合図にお囃子が「流し」から「本番」にかわると、竿燈がいつせいに立ち上がり演技をはじめます。

提灯を米俵、提灯を下げた竿燈全体を稲穂に見立て、それが二〇〇近く並ぶ様は、まさに五穀豊穡の祈りにふさわしい光景です。

竿燈は町の人々が育ててきたお祭りです。見る人も演技する人も共に楽しむお祭りです。

演技終了後には観客も実際に竿燈に触れたり、持ったりと、だれでも楽しむことができます。

「竿燈まつり」は毎年八月四日より七日までおこなわれますので、是非一度はご覧下さるようお待ちしております。

秋田県建設機械器具

リース業協会

事務局長 大内 英昭



途中阿武隈山系や奥羽山脈を越えて、太平洋と日本海が約二時間半で結ばれる事になり、中間には自然豊かな猫苗代湖、磐梯山、松

原湖など東北を代表する観光地があり、洋から湖と海へ結ぶ横断道の開道は観光と物流の面で大きな変化が期待されております。



磐越自動車道は、太平洋―猫苗代湖―日本海を結ぶ。

(現在郡山、会津坂下間六五キロメートル供用している)

三、F-T構想浮上する

前述の通り空港の開業、磐越自動車道の開通により面積の広い本県も近県との距離が近くなり最早や関東経済圏に入りました。

そこで浮上したのが、F(福島)I(茨城)T(栃木)構想です。

これは、県境を超えた、道路整備や広域観光の設定、技術交流など三県が一つになり開発を進めようとするもので、今後十八年間続けられるプロジェクトです。

この事業には、福島空港へのトライアングルハイウェイ、茨城県、栃木県を横断する広域幹線道路なども含まれており、我々業界としても注目したいものです。

この様に福島県は、ここ数年で大きく変わろうとしており、県中央には全国数社の物流基地も出来、東北の玄関としての役割と関東経済圏の仲間入りの両面を備え、飛躍しようとしております。全建リース業協会の皆さん、

美しい自然が残り、本当の空がある、第五十回国民体育大会のキャッチフレーズであります「うつくしま、ふくしまへ」、是非お出かけ下さい。



知識メモ

2

現代パソコン事情

マルチメディアパソコンの姿

◆これはCDプレーヤー?



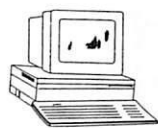
日本のレコード店から、あの大きくて黒いレコード盤が消えたのは、何回聞いても雑音の入らない銀色のCD(コンパクトディスク)に敗退したことだった。ところが最近、この音楽専用だと思っていたCDをパソコンに入れて使うようになった。

NECのテレビCMで、PC98が喋っているのを見かけた方も多いだろう。こうしたCDを入れるパソコンには、おおむねBOSEやソニー製の小振りなスピーカ

ーが付いている。モニターが無ければ、新しいCDプレーヤーかと思っくらいだ。

もちろん、パソコンに入れて使うからにはCDと言えど、音楽ではなくウィンドウズやC言語などのソフトが記録されている(ややこしいことに、このパソコンで音楽用のCDも聞けてしまうが)。歴史は繰り返す、の通り今度はべらべらの黒いフロッピーが、データのいっばい記録できる銀色のCDに敗退する所なのかも知れない。

◆CDとマルチメディア



さて、こうしたCDを使いスピーカーなどの接続されたパソコンをMPC(マルチメディア・パソコン)と呼ぶ。ここでマルチメディアとは、直訳すれば色々な伝達手段の統合を意味する。

今までは、パソコンと言えばモニターに文字を表示する(うつかりすると、緑色のアルファベットとカタカナ)だけだった。しかし性能の向上したパソコン(486の66MHzとかペンティアムなどと宣伝されている機種)では、TV並みのカラー画像とステレオ並みの音声が見える。

前述のスピーカーは、ここで必要となってくる訳だ。しかし、CDはどうか。パソコンが、なかなか自然な絵や音に対応できなかったのは、その情報量が膨大で昔の

◆MPCは高価なゲーム機なのか



ところで、パソコンにゲーム機じみた映像や音声を出す機能など必要ない、と考える向きもあるだろう。確かに数万円で手に入るファミコンが、目まぐるしい画面と派手な効果音を提供してくれるの



ミニコンやスパコンレベルの処理速度を必要としたからだ。フロッピーでは、200枚も300枚も必要な情報量。ところがCDなら、それを一枚で記録できる。MPCに、CDが使われるのは当然だろう。

協会支部名簿

平成5年11月現在

支部名称	代表者名	事務局長名	事務局所在地	電 話	〒
北海道建設機械 リース業協会	片桐 理	安達美代治 榊井真理子	北海道札幌市中央区北四条東2-7 第2まるよビル4F	011-221-1485 FAX 222-5612	060
青森県建設機械 リース業協会	川村 雄蔵	榎木沢四郎 岩間麻寿美	青森県八戸市大字長苗地二日市 (株)ほくとう内	0178-27-0710 FAX 27-0712	039-11
岩手県建設機械 リース業協会	菊地 捷士	小野寺 輝	岩手県水沢市山崎町1-8	0197-24-8271 FAX 24-8271	023
秋田県建設機械 リース業協会	大高 至	大内 英昭	秋田県湯沢市千石町4-2-50 (株)丸大工機商内	0183-72-1777 FAX 73-3353	012
宮城県建設機械 リース業協会	中野 勇	伊藤 壽朗 白畑あや子	宮城県仙台市宮城野区扇町3-4-50 扇町ビル2F	022-238-1751 FAX 238-1752	983
山形県建設機械 リース業協会	佐藤 勉	豊川 實	山形県山形市下条町5-4-15	0236-84-9455 FAX 84-2449	990
福島県建設機械器具 リース業協会	菅野 剛	鈴木 英子	福島県郡山市富田町字向館121-20	0249-52-0588 FAX 52-0588	963
茨城県建設機械 リース業協会	根本 忠直	畑 しずえ	茨城県つくば市松代2-9-15	0298-55-6631 FAX 52-8441	305
栃木県建設機械 リース業協会	小野寺 隆	阿部 智光	栃木県宇都宮市松原2-5-21 栃木県木材会館4F	0286-21-6062 FAX 21-1923	320
群馬県建設機械 リース業協会	石塚 幸司	的場 譲	群馬県前橋市若宮町3-12-22	0272-32-7203 FAX 32-7310	371
新東京建設機械 リース業協会	小俣 實	関口正一郎 真鍋 義明 大川 喜子	東京都千代田区神田駿河台2-1 近江兄弟社ビル4F	03-3294-4071.2 FAX 3293-7275	101
神奈川県建設機械 リース業協会	玉井 武治	潮脇美絵子 森川 晴子	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 1-6-1 岩井ビル5F	045-322-0613 FAX 314-5513	221
長野県建設機械 リース業協会	村松 照公	春日 光夫	長野県松本市県1-3-53	0263-33-1820 FAX 39-1132	390
静岡県建設機械 リース業協会	原 照雄	石川 修	静岡県寿町6-18 小沢ビル3F (建設役車両安全技術協会静岡支部内)	054-287-9151 FAX 284-7113	422
中部建設機械 リース業協会	坂井 熙	服部 芳明	愛知県名古屋市西区藤ノ宮通り 3-43 小出ビル1F	052-571-2080 FAX 561-6529	451
新潟県建設機械器具 リース業協会	酒井 安治	吉田 準一	新潟県新潟市出来島1-11-31 (株)新潟まるよし内	025-284-6605 FAX 284-5265	950
富山県建設機械 リース業協同組合	高野 義雄	小倉 秀信	富山県黒部市沓掛567 (株)吉田商内	0765-52-2688 FAX 54-3307	938
石川県建設機械 リース業協会	吉川 義孝	後本 暁男	石川県金沢市北安江町3-1-33 (株)ヨシカワ内	0762-62-4585 FAX 63-2613	920
福井県建設機械 リース業協同組合	水野 健治	松川 秀次	福井県福井市間屋町2-45 松田ビル3F	0776-21-9010 FAX 21-9081	910
和歌山県建設機械器具 リース業協同組合	角口 賀敏	丸田 美枝	和歌山県和歌山市太田667	0734-74-5789 FAX 74-5789	640
滋賀県建設機械 リース業協会	松田 彦知	中村 幸子	滋賀県神崎郡五個荘町石塚45-6 滋賀リース産業(株)内	0748-48-4711 FAX 48-4710	529-14
大阪建設機械 リース協同組合	石井 毅	野崎 雅子	大阪府大阪市浪速区桜川3-4-24 カベタニビル4F	06-561-7405 FAX 567-3432	556
兵庫県建設機械 リース業協同組合	富田 尚孝	小野 恒雄	兵庫県神戸市中央区多聞通3-2-9 甲南スカイビル2F206	078-361-2481 FAX 361-2487	650
中国建設機械 リース業協会	山本 高義	清水 五月	広島県広島市安佐南区長束 2-11-11 第2ヨシヒロビル2F	082-230-1208 FAX 230-1208	731-01
四国建設機械器具 リース業協会	三原 達雄	明石 俊幸	香川県高松市福岡町3-35-16	0878-51-7683 FAX 26-2324	760
九州建設機械器具 リース業協会	多田 利夫	北野 富也 吉本 由子	福岡県福岡市博多区博多駅東 2-9-13 東福ビル4F	092-482-6685 FAX 452-2563	812
沖縄県建設機械器具 リース業協会	榑原 文男	吉里 真達	沖縄県浦添市字西原573	098-876-6410 FAX 876-6410	901-21

に、何十万円もするパソコンで同じ事をするなど馬鹿げている。しかし、カード型データベースで名刺管理をしている場合を考えるとみよう。最近の名刺には、本人のカラー写真が印刷されていることも珍しくない。なるほど、後から名刺を見て相手の顔が思い出せるのは便利だ。

従来のカード型データベースでは、この顔写真を入れることが出来なかった。不満を感じてきた人も多い筈だが、ここでMPCの必要性が頭をもたげて来る(現状のパソコンでも、ソフトによって画像入力に対応しているが)。

さらに、相手の声を記録する機能があったら、どうだろう。電話の自動応答システムと結び付けられ、常連客が名前を告げる前に「〇様ですね、いつもお世話になっています」などという応対が可能となる。



◆求められるパソコンの進化



マルチメディアは、優れた頭脳を持つに至ったパソコンへ、目と耳や姿と口を与える試みだと言えるだろう。アップル社の目指していたナレッジ・ナビゲーター(意味すれば電子秘書か)の基礎技術であり、パソコンは目と耳から得た情報が全体として何を意味するか、認識できなければならぬ。

つまり情報の統合化と言うことであり、例えば耳の尖った可愛い小動物の姿と、ニャーという鳴き声で猫がいるとパソコンに判断できるなら、それはキーボードからネコガイルと打ち込んで教えていたのとは決定的に意味が異なる。この時、パソコンの中にはネコという抽象的な言葉ではなく、毛糸玉にじゃれついて鳴く愛らしい猫のイメージが存在しているのだ。同じように、姿と口(モニター

◆遅れているソフトの展開



とスピーカー)が単なるテレビやステレオの代わりではなく、先の例では「猫」を表現するために、猫の動きや鳴き声を真似てみせるよう機能しなければならない。

ちょっと考えただけでも、MPC用のソフト作りが困難なのは理解できる。ようやく揃ったソフット・タイトルを見て、残念ながらファミコンのゲームじみた教育用の物が大半だ。

まだまだ、映像と音声の膨大なデジタル情報に振り回されて、それを統合化する技法は低レベルな感じが否めない。もっとも、アメリカで規格化されているMPCの定義が甘く(最新のレベル2でも486SX/25MHz、メモリ4MB、グラフィックはフルカラーでなくハイカラーで可など)、本来のマルチメディア・タイトルが作

られても多くのMPCは力不足で対応できない。

日本では、このMPC規格をクリアしているのが富士通のFMタウンズとNECのPC98マルチくらい(レベル1対応)という有様なので、あまり大きなことは言えないが今後のパソコンは概ねMPC化への道をたどるだろう。なぜなら、MPCはキーボードを叩かなくても口頭の命令だけで動作することが出来る筈だからだ。

初めに書いたことと矛盾するようだが、MPCとは決してCDを入れたりリスピーカーが付いたりするだけのパソコンではない。それはMPCとしての前提条件であり、実際にはそれを100%活かすための高度なソフトが導入されたものでなければ、MPCと言うことはできない。

MPCの本当の姿とは、人間が普通に会話を交せる新しい友人(良き協力者)なのかも知れない。

テクニカルライター

妻木 聡



明けて
おめでとうございます。

旧年は建設業界においても民間需要の停滞の上に、ゼネコン不祥事の影響で公共工事の発注入札についての問題が提起され、受注額が前年を大きく下回る結果となり、又、急激な円高、そして冷夏、さらには生活消費の減少と、複合不況のどん底で、日本経済が迷路に入っており出口の見えぬままに一年が去っていききました。

当協会では十月十八日に創立二十周年記念式典が滞りなく終了出来た訳ですが、この二十年間を振り返りますと、決して平坦な道ではありませんでしたように思われます。幸いにも二十周年式典時に建設大臣表彰、局長表彰を受けられた、協会の功労者に心からお祝い申し上げます。又、各支部の事務局長及び職員の方々には会長より

永年勤続表彰を受けられおめでとうございました。受賞者の感想を掲載いたしました。

今年是小俣会長の巻頭言のタイトル「決意を新たに建設業の良きパートナーに」を会員各位に推進努力をし、厳しい経済環境を、会員各位が独自の特性を発揮し顧客との信頼関係を密にする事が肝要と思われまます。

本号では、二十周年式典及び懇親会の特集を載せました。又、座談会がテーマとは若干ずれ、混迷する現況についての意見の交換になってしまったように思います。

会員各位には広報に多大なるご支援を賜っておりますが、尚一層のご投稿をお願い致します。

景気の回復は本年も望めないとい厳しい発言をされる有識者もおりますが、会員各位のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げる次第です。

平成五年十二月八日

広報委員長

三瓶徳司



かいほう No.40

発行日 平成6年1月

発行者 社団法人 全国建設機械器具リース業協会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1-1

近江兄弟ビル4階

TEL 〇三―三二九三―七二七三、四

FAX 〇三―三二九三―七二七五

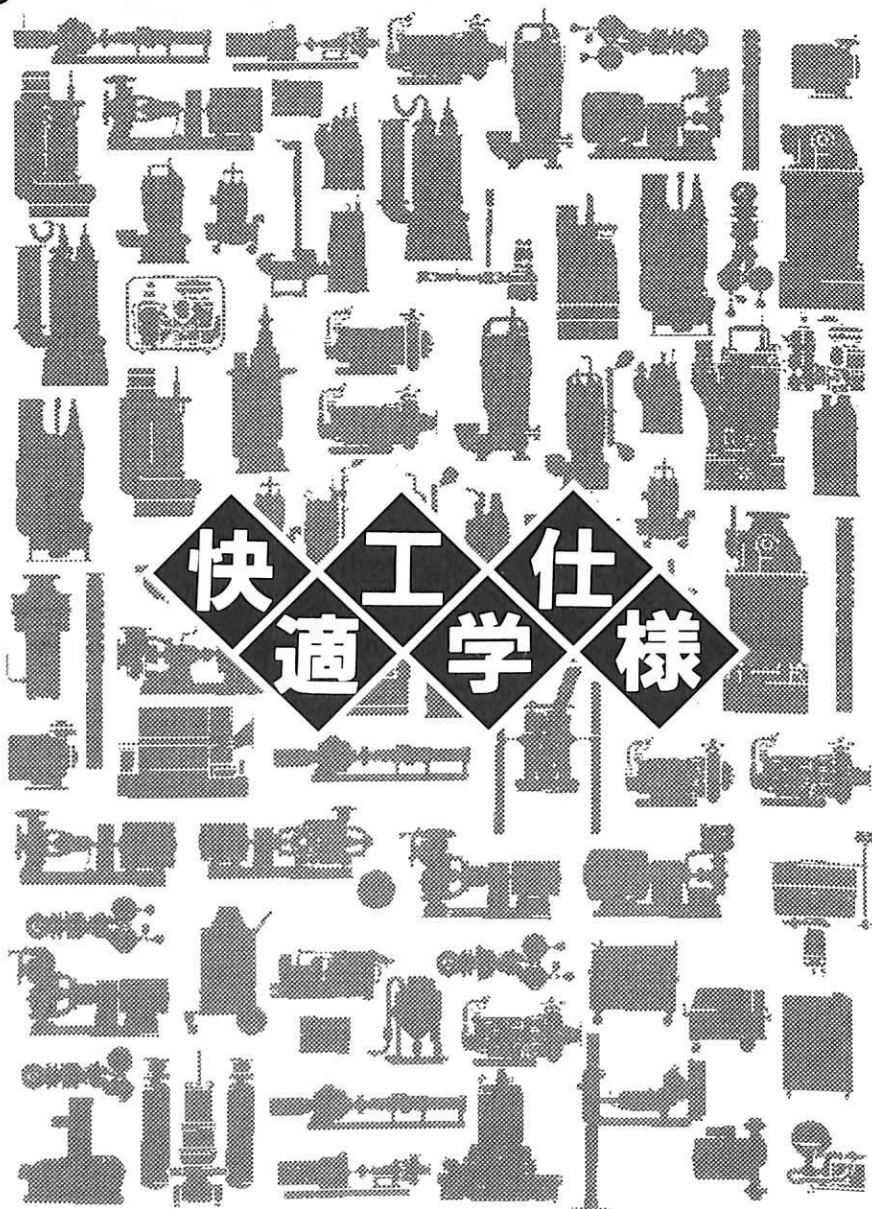
発行責任者 広報委員長 三瓶 徳司

制作編集 (有)妻木電子情報印刷

〒151 東京都渋谷区西原1-135-1-5

TEL 〇三―三四六〇―二五八五

FAX 九三―三四六〇―二五八六



ツルミは、人と地球への快通工学
Amenics

未来への流れをつくる技術のツルミ

株式会社 鶴見製作所

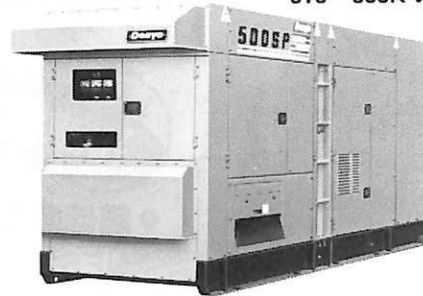
ツルミは、ポンプと共に進化する。

ツルミのポンプがこの世に生まれたのは1924年。それから67年。私たちはポンプから拡がり、液体・固体・空体輸送機器の総合メーカーに進化しました。公園の噴水から、明石海峡大橋の基礎工事まで、多くの製品と大きな実績でお応えしています。人と環境への思いやりをこたへにした、アメニクス(快通工学)をスローガンに。私たちの製品は、もっと、ずっと、進化を続けます。

Denyo

エンジン発電機

0.5~800kVA



DCA-500SPK
50Hz 450kVA・60Hz 500kVA

エンジン溶接機

100~500A



TLW-300SSK
30~300A

エンジンコンプレッサー

1.4~26.9m³/min



DPS-290HS
高圧型(10.5kgf/cm²)8.2m³/min

建設現場で威力を発揮!
デンヨーのパワースーツ

建設・土木機械レンタルシステム

RONETS

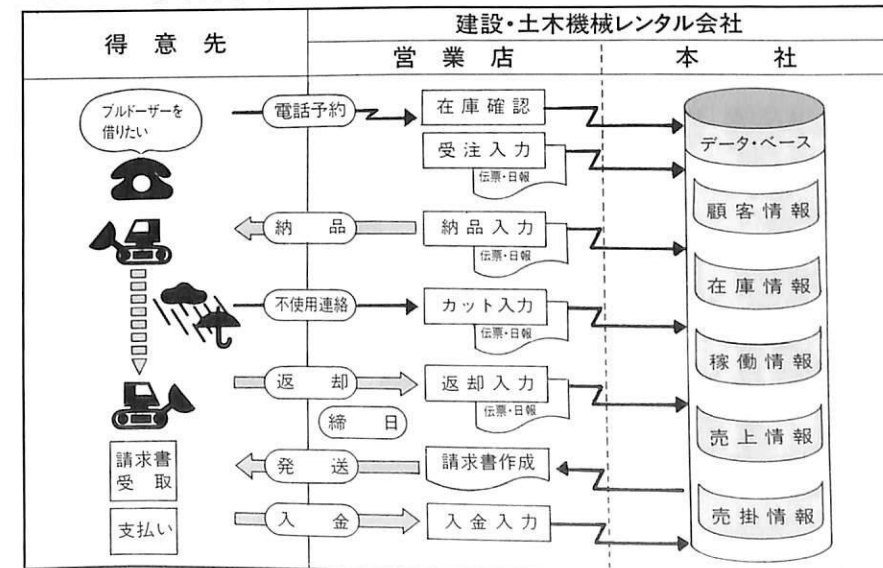
[Rental Online Network Total System]

『ローネット』は、コンピュータにより建設機械レンタル業に係る事務処理の合理化と顧客サービスの充実を主な目的として開発したオンライン対応ソフトウェア・パッケージです。

『ローネット』導入の効果

- 事務処理の合理化と標準化——事務処理の合理化により定例業務の時間短縮、また営業店毎に異なる業務の流れを標準化することができます。
- 顧客サービスの充実——リアルタイムな各種情報により顧客の問い合わせに正確、迅速な対応ができます。
- 売上促進の各種情報を提供——リアルタイムな各種情報により売掛金の回収率や機械の稼働率を高め、また営業力の強化を図ることができます。
- SIS(戦略情報システム)指向——『SIS』を実現するための思考を盛り込んだ基本パッケージ・システムです。
- システムの拡張——ユーザーのニーズによりシステムの拡張ができ、高度なシステムへと成長する『ローネット』です。

『RONETS』業務(例)概略図



※『RONETS』は、株式会社レントと共同開発したシステムであり、順調に稼働しております。

お問い合わせ先

ソフトウェアハウス



株式会社経調

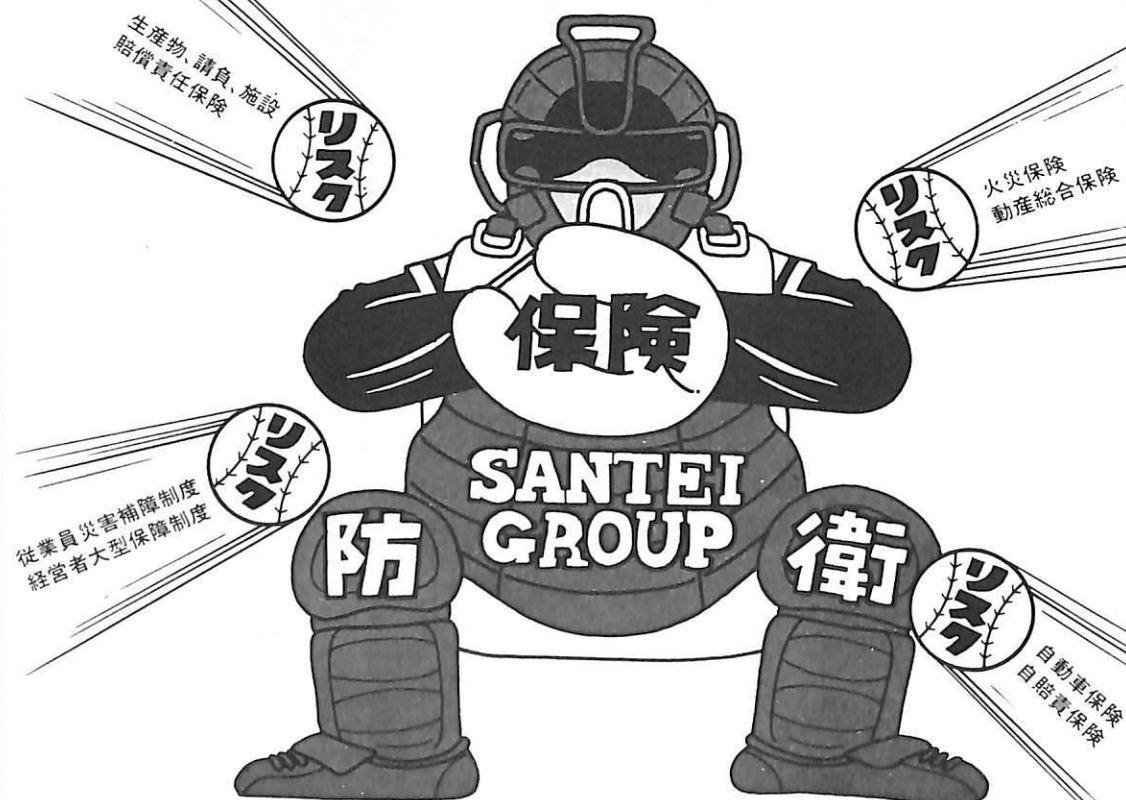
通産省 SI企業 登録・認定

- 本社 〒135 東京都江東区木場5-11-17 商工中金深川ビル6F
電話(03)5620-1500(代表) FAX(03)5620-1499
- 札幌支店 〒060 札幌市中央区北2条東4丁目 サッポロファクトリー三条館5F
電話(011)207-4300(代表) FAX(011)207-4326
- 福岡営業所 〒812 福岡市博多区博多駅東1-12-5 博多大島ビル6F
電話(092)472-3931(代表) FAX(092)475-0177
- 富山営業所 〒930 富山市丸の内1-8-17 協栄生命富山ビル9F
電話(0764)44-5305(代表) FAX(0764)44-3822

●技術で明日を築く
デンヨー株式会社
本社 〒169 東京都新宿区高田馬場3-18-1 TEL(03)5265-3301
中野本社 〒164 東京都中野区上高田4-2-2 TEL(03)3278-1111

札幌営業所 ☎011(862)1221 東京営業所 ☎03(3228)2211 大阪営業所 ☎06(484)7131
東北営業所1 ☎0195(47)4511 横浜営業所 ☎045(774)0321 広島営業所 ☎082(255)6601
東北営業所2 ☎022(286)2511 静岡営業所 ☎054(261)3259 高松営業所 ☎0878(74)3301
関西営業所1 ☎025(268)0791 名古屋営業所 ☎052(935)0621 九州営業所 ☎092(935)0700
関西営業所2 ☎0272(51)1931 金沢営業所 ☎0762(91)1231 出張所/全国主要38都市

いつ何がおこるか ガード ガッチリ



“リース企業”をとりまく
“リスク”(危険)からお守りする
リース業協会共済制度(リース賠償責任保険)

まだ、ご存知ない会員の皆様も是非所属協会または下記へお問い合わせ下さい。



引受保険会社 **AIU 保険会社**
(エイアイユー インシュアランス カンパニー)
赤坂支店：東京都港区赤坂 3-1-2
TEL 03-(3583)-1121

取扱代理店

SANTEI GROUP
株式会社 総合インシュアランス
東京：東京都世田谷区用賀3-11-15SGビル
〒158 TEL 03-3708-7371
横浜：横浜市戸塚区品濃町539 6アーバン東戸塚6F
〒244 TEL 045-821-7181

続々と登場する 日本車輛のレンタル商品群



18機種新発売

- 超低騒音認定済
NES25 ~ NES220
- 低騒音認定済
NES250 ~ NES800

NEW NES シリーズ



ミニクレーン
ゴムクローラークレーン TC304(3ton)
TC205(2ton)



コンパクトステージ **昇太郎**
高所作業台車 COS280M

製造元 **重 日本車輛**

総代理店 **にち ゆう 日熊工機**

厚生年金基金加入で 豊かな老後設計を

国の老齢年金部分より多い年金を受取るための制度です。人生80年時代に備え、国の年金と並んで老後生活を支える支柱として、加入される方々が年毎に増えております。

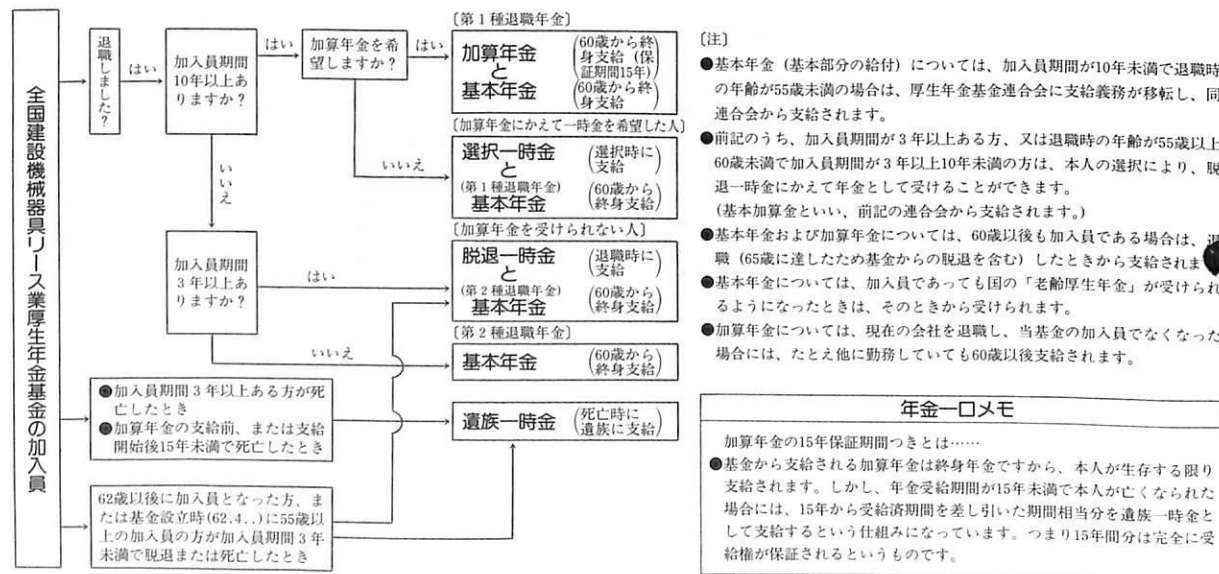


社員の方々には 老後の安心を 企業にとっては 人材確保と繁栄を

当基金では、年金、一時金の支払いのほか、各種福祉事業を行っております。

厚生年金基金についてのご質問、ご相談は下記までお問い合わせ下さい。

あなたはこんな給付が受けられます



全国建設機械器具リース業厚生年金基金

〒102 東京都千代田区飯田橋2-7-5

明治生命飯田橋ビル5階

TEL 03(3230)3871~2

ゆたかな明日へ
明治生命



逸見 政孝

企業・団体の福祉に

役員・従業員のかたの万一の場合の保障に

団体定期保険

勤務者のゆたかな老後のために

財形年金保険

企業の退職金制度に

企業年金保険

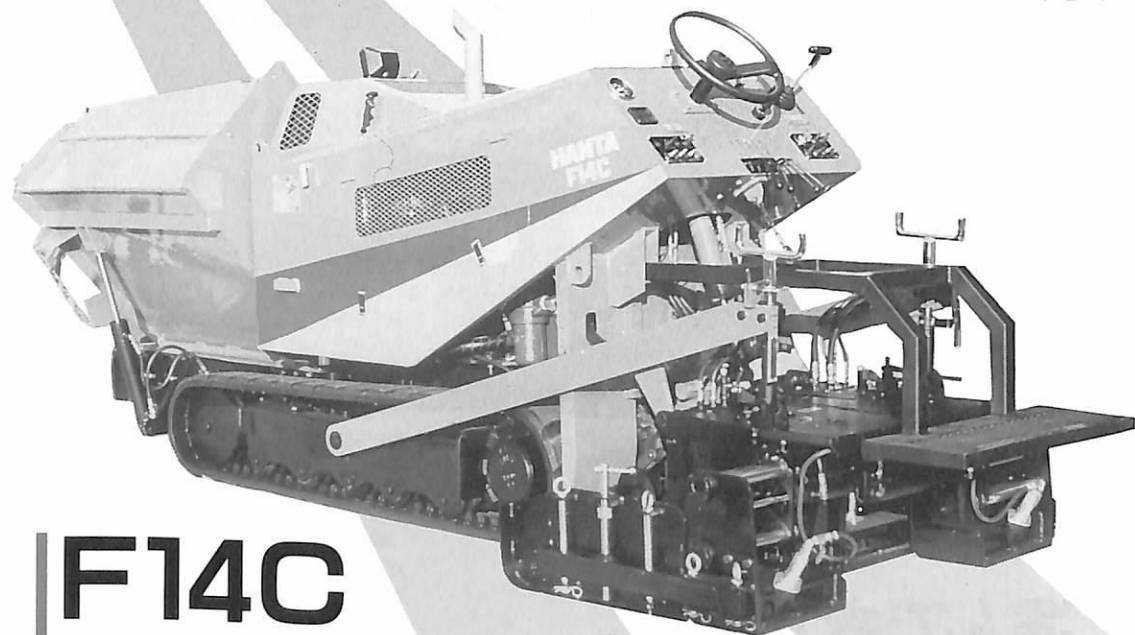
社会保障と退職金制度を調整する

厚生年金基金保険

(全国建設機械器具リース業厚生年金基金)

世界最小

スーパーミニ アスファルトフィニッシャ 登場!



F14C

舗装幅：0.8m～1.4m

重量：2.7t (クレーン付4t車で楽々回送)

車体幅：0.9m (ホッパ除く)

従来、フィニッシャが使用できなかった狭い現場での舗装作業の機械化・省力化が可能となりました。4t車1台にF14Cとハンドガイドローラを搭載することで、輸送コストの低減・省力化・時間短縮が図れます。

製造元 範多機械株式会社

販売元



ユアサ商事株式会社
建設機械事業部

〒103 東京都中央区日本橋大伝馬町13番10号

TEL (03) 3665-6579 FAX (03) 3665-6976

Kubota
美しい日本をつくらう。



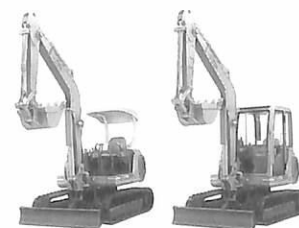
アセアードマークⅢのラインナップが、さらに拡がりました。作業性も、操作性も、安全性も、全てがBEST、全てがNo.1のミニバックホー。あふれるパワーとみなぎる余裕で、快適な作業をお約束します。

快力

ASSEADO MARK-III

ますます充実のラインナップ、アセアードマークⅢ。

K-008・バケット容量：0.016 0.02m³・機械質量：760kg (Lタイプ) / 775kg (Hタイプ) / 800kg (DHタイプ)
K-022・バケット容量：0.06m³・機械質量：2,280 (2,430) kg
K-025・バケット容量：0.07m³・機械質量：2,440 (2,590) kg
K-028・バケット容量：0.07m³・機械質量：2,680 (2,830) kg



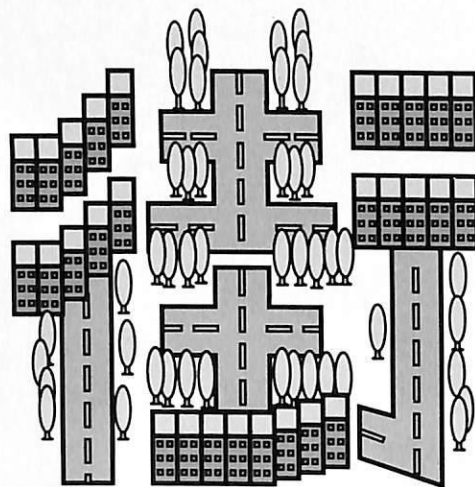
K-030・バケット容量：0.08m³・機械質量：2,780 (2,930) kg
K-035・バケット容量：0.10m³・機械質量：3,090 (3,240) kg
K-038・バケット容量：0.12m³・機械質量：3,310 (3,460) kg
K-040・バケット容量：0.13m³・機械質量：4,120 (4,270) kg
K-045・バケット容量：0.14m³・機械質量：4,460 (4,610) kg

※()内はキャビンタイプです。

クボタエースギア

株式会社クボタ カタログのご請求、およびお問い合わせは、本社建設機械事業部 ☎556 大阪府浪速区船場1丁目2番47号 ☎06(648)2103 本社建設機械営業部 ☎06(648)2070 本社建設機械営業部金沢駐在 ☎0762(75)1121 九州建設機械営業部 ☎092(606)3715 北海道クボタ建設 ☎011(37)75511 東北クボタ建設 ☎022(384)2144 関東クボタ建設 ☎048(865)5181 東京クボタ建設横浜支店 ☎0262(85)4245 中部クボタ建設 ☎0586(73)11235 中国クボタ建設 ☎0823(72)0233 四国クボタ建設 ☎0878(74)6565

SAKAI

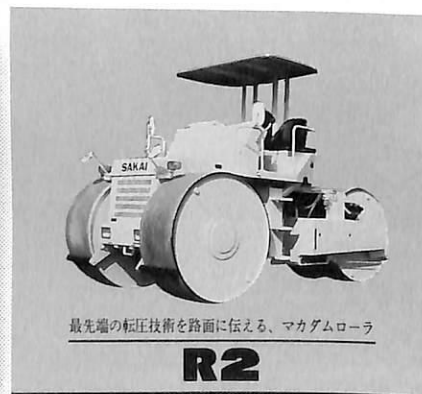


道づくり、街づくり。
いつもそこにサカイの技術があります。



能率の良い作業が行える先進のトルコン車

T600C



最先端の転圧技術を路面に伝える、マカダムローラー

R2



路面清浄、造成地の散水などで活躍する

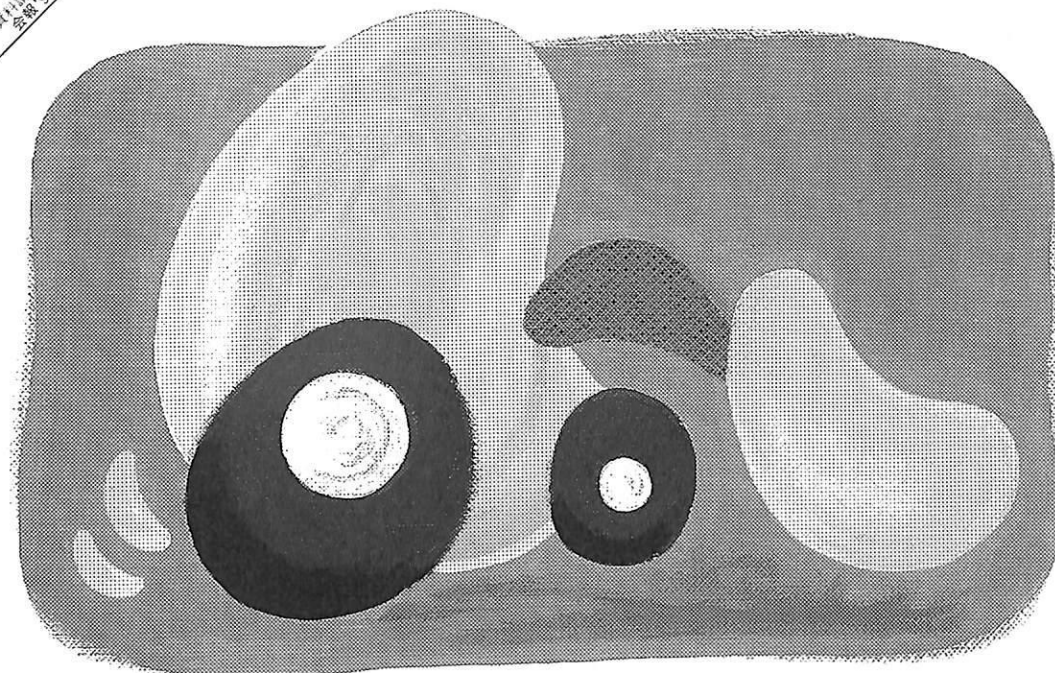
散水車 **ST4000K**

SKW 酒井重工業株式会社

本社 〒105 東京都港区芝大門1-4-8 浜松町清和ビル8(03)3434-3401代

札幌営業所 北関東営業所 南関東営業所 北陸営業所 広島営業所 福岡営業所 研修センター 東京工場
仙台営業所 長野出張所 名古屋営業所 大阪営業所 四国営業所 プロダクトサポート部 技術研究所 真岡工場

2011年
金賞受賞

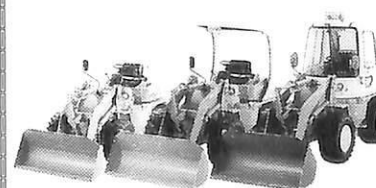


機械が、笑顔を 運んできた。

ワクワクするようなスタイルの中に、うれしい機能がつまっている。

- ◎仕事が、楽しくなってくる。現場が、明るくなってくる。
曲面フォルムの車体、キャノピー*、キャブ*。
車体カラーはアクションレッドとジュエルグリーン*の2種類。
- ◎ホイールキャップを業界で、はじめて装備。
- ◎誰にでも、すぐ愛車のフィーリング。
簡単操作のオートマチックHSTを採用。
- ◎力がある。スピードが速い。さすが三菱の設計、性能。
- ◎信頼性、サービス性にも、使う人にうれしい設計。
扱いやすさを徹底追求。

*はオプション。



三菱小型ホイールローダシリーズ
WS 210/310/410

2,550kg 30ps 0.4m³/3,000kg 38ps 0.5m³/3,250kg 38ps 0.6m³
◆標準車、キャノピー仕様、キャブ仕様を用意しています。
◆標準車は、普通免許で公道走行がOKの小型特殊自動車です。

CATERPILLAR(キャタピラー)及びCATはCaterpillar Inc.の登録商標です。

CAT 新キャタピラー三菱

営業本部 〒158 東京都世田谷区用賀四丁目10-1 TEL. 03-5717-1155

30th
ANNIVERSARY

KOMATSU

KOMATSUは今、
テクノロジーズ。



PHOTO: PC200 HYPER オプション装備車

アバンセを超えたアバンセ、ワイドバリエーションで、ぞくぞく誕生。

すべての機能は、気持ち良い仕事のために生まれました。

- 乗り心地と操作性を追求したコックピット感覚の大型キャブ
- 新フロン対応の外気導入型エアコン(デフロスタ機構)を装備
- ダブルスライド機構のニュー・リストコントロールレバーを採用
- フロントウインドに電動式オートフルアップ機構をオプション設定
- 高次元な作業機能は、目に見えないところでも語りたい。
- 負荷変動に影響されず粘り強い掘削力と高いコントロール性を誇るコマツ独自の新油圧システム「圧力補償式CLSS」を採用。

めざしたのは、人の気持ちになれる電子制御の開発でした。

●新規バージョンの「ハイパーシリーズ」は、最先端の電子制御システムを搭載。電子のチカラが人の気持ちをやさしく考えます。環境との調和。それも性能のひとつです。

- フォルムは、周辺環境との調和を考えて曲面デザインを追求
- ファン騒音(風切り音)を下げるために斜軸流ファンを採用

ニューアバンセ新登場

「E」こと、咲かせる。
YANMAR

速・効・掘り

下水道工事は、交通渋滞や騒音の問題から工事期間の短縮が非常に求められます。ヤンマークローラバックホーB7は、下水道本管工事に対応した4,500mmの掘削深さと旋回半径1,075mmの超小旋回、そしてクラスを超えたパワーと機能で側溝掘りもスピーディーに行えます。もちろん、超低騒音で周囲と作業環境に配慮しています。

B7

**YANMAR
CRAWLER
BACKHOES**

- 下水道本管工事に対応したクラス最大の掘削深さ4.5m。
- 安全で能率的作業を実現するバケットとキャビン(キャノピー)干渉防止機構。
- 市街地や夜間作業でも安心の「超」低騒音設計。62dB(A)(周囲7m)
- 狭い道路でもゆとりの作業を実現するクラス最小車体幅2.15m。

ヤンマー・超小旋回バックホー-B7

- エンジン出力:61馬力直噴
- 標準バケット容量:0.25m³
- 最小旋回半径:1,075mm
- 機械重量:7,500kg



ヤンマーディーゼル株式会社 本社 〒530 大阪市北区茶屋町1番32号 TEL.(06)376-6250

コマツ 営業本部 〒107 東京都港区赤坂2-3-6 TEL 03-5561-2714

●お問い合わせは/北海道 0133-73-9292/東北 022-231-7111/関東 048-647-7211/東京 0462-24-3311/中部・北陸 0586-77-1131/大阪・四国 06-864-2121/中国・九州 092-641-3114

伝統を磨く、そこに 《快適》の未来が映る。

技術はひたすら人の《快適》のために、根を張り、枝を伸ばし、葉を繁らせてこそ、はじめて必然の新しい花を開く。

コベルコはそう考えます。「アセラ・スーパーバージョン」誕生。

人の共感をますます必要とするマシンのために「快適性能」を追求してきた私たちの技術蓄積。

これは、その頂きに咲いた一つの花であり、人の心を知り、人の心に応えることを唯一の伝統とする

コベルコマシンの新たな形です。



ACERA *Super Version*
アセラ・スーパーバージョン

SK 100 ●標準バケット容量: 0.4m³
SK 120/SK 120LC ●標準バケット容量: 0.45m³
SK 200/SK 200LC ●標準バケット容量: 0.7m³
SK 220/SK 220LC ●標準バケット容量: 0.9m³

- 姿も機能も快適化の先端を行くヒューマン・デザイン
- 電子アクティブコントロールシステム採用の滑らか操作性
- 人の耳に優しいマシンサウンドの創造に成功した静音設計
- 走行最高スピード7段階可変システムと旋回微速システム



- パワーウィンド標準装備、新快適空間ヒューマン・キャブ



- 自己診断・メンテ情報機能大幅拡大のマルチディスプレイ

お問い合わせ、カタログご請求は下記までご連絡ください。



神鋼コベルコ建機 ショベル営業総括室

本社 〒150 東京都渋谷区神宮前6丁目27番8号 ☎03-3797-7113
 ●北海道支店 ☎011-862-3433 ●東北支店 ☎0223-24-1141 ●北関東支店 ☎0273-52-1170
 ●関東支店 ☎0473-20-7111 ●北陸支店 ☎0762-76-2331 ●中部支店 ☎052-603-1201
 ●近畿支店 ☎06-414-2100 ●中国支店 ☎0824-23-2711 ●四国支店 ☎0878-74-2111
 ●九州支店 ☎092-503-4111